

千葉県八千代市

## 米本城跡 c 地点

－共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2023

加茂 文雄

八千代市教育委員会





中国産青磁折縁盤・白磁碗



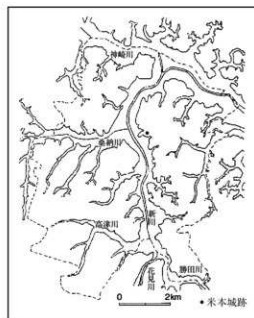
調査区全景(南西から)



千葉県八千代市

## 米本城跡 c 地点

－共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－



2023

加茂 文雄

八千代市教育委員会

## 中世土器・陶磁器索引 \*例えば48-1(22)は第48図1で22ページとして表記

### 土器

- カワラケ …………… 16-13P1(17).21-15P1(21).22-88P1(22).26-61P1(25).26-62P1(25)  
26-71P1(25).26-73P1(25).29-24P1(27).29-54P1(27).31-1.2.4(29).32-1(30)
- 内耳土鍋 …………… 14-1～4(15).21-01井1～4(21).22-83P1.2(22).22-84P1.2.4～6(22)  
22-85P1(22).22-87P1(22).22-88P2(22).23-93P1(23).23-103P1(23)  
26-56P1(25).26-67P1～3(25).29-44P1(27).29-50P1(27).29-54P2.3(27)  
31-5～9(29).32-2(30).33-2.5(31).33-下段2.3(31)
- 播鉢 …………… 14-5～7(15).21-01井5(21).22-84P3.7(22).22-85P2.3(22).29-50P2(27)  
31-10.11(29).33-3.4(31).33-下段1(31)
- 壺 …………… 23-92P1(23)
- 火鉢 …………… 33-6(31).34-5(32)
- 土製釜 …………… 34-4(32)

### 瀬戸美濃産

- 平碗 …………… 16-土上2(17).22-84P8(22)
- 緑釉小皿 …………… 31-14(29)
- 緑釉挟み皿 …………… 15-8(16).26-65P1(25).33-8(31)
- 卸目付大皿 …………… 21-01井6(21)
- 播鉢 …………… 14-10(15).15-11(16).16-2T1(17).16-土上3(17).22-83P3(22).22-84P10(22)  
26-56P2(25).29-49P1(27).33-7(31).34-6.8～10(32)
- 茶壺 …………… 22-84P9(22)
- 茶入 …………… 31-16(29)
- 端反皿 …………… 31-12.13(29).33-9(31)
- 丸皿 …………… 31-15(29)
- 練鉢 …………… 34-7(32) \*1点のみ近世

### 常滑産

- 甕 …………… 15-12(16).16-土上4(17).21-01井7.9(21)
- 片口鉢 …………… 21-01井8(21).21-15P2(21).31-17.18(29).34-11(32)

### 中国産

- 青磁緑折皿(盤) …… 23-90P1(23)
- 白磁端反皿 …………… 26-76P1(25)

## 凡 例

- 1 本書は、八千代市米本字内宿南1732-1の一部他に所在する米本城跡c地点の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、確認調査を国庫・県費補助事業として、本調査は、民間開発等埋蔵文化財調査事業として、事業者より調査協力金を納付いただき、八千代市教育委員会の委託事業として実施した。
- 3 発掘調査・本整理作業は以下のとおりである。  
【調査】 確認調査 期間 令和4年3月3日～15日 面積190.5㎡/2,048.19㎡ 担当 森  
本調査 期間 令和4年6月13日～8月10日 面積865㎡ 担当 森 竜哉  
調査補助員 板橋三郎・窪坂雄志・品川信昭・柴田清加・鈴木一代・高木秀夫  
萩原雄一・長谷川恵理子・原田雪子・藤田千博・室中勝典  
【整理】 図版作成 期間 令和4年9月5日～12月27日 担当 森  
整理補助員 柴田清加・長谷川恵理子  
文化財整理員 岩崎千代子・宇都洋子・杵島由希
- 4 本書の編集・執筆は、第3章を除き森がおこなった。
- 5 現場の遺構写真及び報告書掲載の遺物写真は森が撮影した。
- 6 本書の作成・刊行については、整理補助員、文化財整理員と森が協力して行い、森が統括した。
- 7 出土遺物、実測図等の資料は、八千代市教育委員会が保管している。
- 8 本書の遺構番号は、発掘調査時の番号を使用している。
- 9 遺構・遺物の縮尺は、以下のとおりとした。測量図・全測図等については別記とした。  
【遺構】 適宜とし、図中に記載した。  
【遺物】 土器・陶磁器1/3 石製品・金属製品等1/3 銭貨・銅原寸
- 10 遺物実測図の中軸線サイドの空きは、復元実測を示す。
- 11 遺構遺物のスクリーントーンは、その都度説明を加えた。
- 12 出土した中世遺物について、元船橋市教育委員会 道上文氏にご教示を賜わるとともに第3章まとめ「本跡出土の中世遺物と調査地点の性格について」の原稿を執筆いただいた。
- 13 米本城跡全般について、千葉県立郷土博物館 外山信司氏・遠山成一氏にご教示を賜わった。
- 14 本書使用の地形図等は下記のとおりである。  
第1図 国土地理院発行 1/50,000佐倉に加筆  
第2図 「八千代市中世館城址調査報告」1978  
第3図 八千代市発行 1/2,500八千代都市計画基本図
- 15 発掘調査から報告書刊行に至るまで、下記の諸氏・機関にご指導、ご協力をいただいた。(敬称略)加茂文雄 大東建託株式会社 千葉県教育庁文化財課

## 本文目次

第1章 序説		
第1節 調査に至る経緯	1	第2節 調査の方法と経過 1
第2章 検出された遺構と遺物		
第1節 確認調査概要	11	第5節 中央遺構群と出土遺物 24
第2節 掘込型屋敷.01土塁.09～13P.04M	11	第6節 南側遺構群と出土遺物 25
第3節 02調査区遺構概要	17	第7節 整地面出土遺物 27
第4節 北側遺構群と出土遺物	18	第8節 排土・確認調査時出土遺物 28
第3章 まとめ		
本跡出土の中世遺物と調査地点の性格について	33	
参考文献・報告書抄録		

## 挿図目次

第1図	周辺の遺跡	1	第18図	02調査区北側遺構群配置図	19
第2図	米本城跡測量図	2	第19図	01井戸遺構実測図	20
第3図	調査地点	3	第20図	14P土層断面図	20
第4図	確認調査遺構確認状況図	4	第21図	北側遺構群出土遺物(1)	21
第5図	調査地点測量図	5	第22図	北側遺構群出土遺物(2)	22
第6図	調査地点遺構配置測量図	9	第23図	北側遺構群出土遺物(3)	23
第7図	遺構配置図	10	第24図	02調査区中央遺構群配置図	24
第8図	基本層序図	11	第25図	62P・63P土層断面図	24
第9図	トレンチ・調査区配置図	12	第26図	中央遺構群出土遺物	25
第10図	土塁部分地形測量図	13	第27図	02調査区南側遺構群配置図	26
第11図	01土塁等遺構配置図	13	第28図	54P遺構実測図	26
第12図	01土塁土層断面図	14	第29図	南側遺構群出土遺物	27
第13図	09P土層断面図	15	第30図	整地面No遺物分布図	28
第14図	01土塁出土遺物(1)	15	第31図	整地面No出土遺物	29
第15図	01土塁出土遺物(2)	16	第32図	整地面一括出土遺物	30
第16図	土塁等出土遺物	17	第33図	排土・確認調査時(1)出土遺物	31
第17図	02調査区遺構配置図	18	第34図	確認調査時(2)出土遺物	32

表1	米本城跡c地点 遺物別分類表	36
表2	米本城跡c地点 その他の中世遺物分類表	36
表3	米本城跡b地点 遺物別分類表	36
表4	米本城跡c地点 中世遺物の内訳	36
表5	米本城跡b地点 中世遺物の内訳	36
表6	米本城跡c地点 瀬戸・美濃窯製品時期別変化	37
表7	米本城跡b地点 瀬戸・美濃窯製品時期別変化(登窯含む)	37
グラフ1	米本城跡c地点 瀬戸・美濃窯製品時期別変化	37
グラフ2	米本城跡b地点 瀬戸・美濃窯製品時期別変化	37
グラフ3	米本城跡c地点と他の遺跡の遺物組成比較	38
表8	他の遺跡と米本城跡c地点の遺物組成比較(中世・一部は17c前半含む)	38

## 図版目次

巻頭図版中国産青磁折縁盤・白磁碗 調査区全景(南西から)

図版1	遺構 [土塁.1T～3T調査]
図版2	遺構 [1T～3T調査.04M]
図版3	遺構 [基本層序.14P.01井戸]
図版4	遺構 [調査区全景.54P.83P.84P]
図版5	遺物 [土塁.土塁上]
図版6	遺物 [2T.13P.15P.24P.49P.50P.56P.57P.62P.65P.67P.73P.76P.92P.93P]
図版7	遺物 [88P.90P.103P.54P.83P]
図版8	遺物 [84P.61P.87P.01井戸]
図版9	遺物 [整地面No遺物.整地面一括]
図版10	遺物 [確認調査.排土]



# 第1章 序 説

## 第1節 調査に至る経緯

令和3年12月、加茂 文雄 氏(以下事業者という)から、共同住宅建設を予定する旨で「埋蔵文化財の取扱いについて(確認)」の文書が八千代市教育委員会に提出された。確認地は、市道跡No.117米本城跡の範囲内であり、予定地内に土塁が確認されることから、文化財保護法第93条の届出が必要な旨回答された。届出を受けて、協議の結果、確認調査を実施することとなり、伐採等準備が整った令和4年3月に確認調査を実施した。その結果、中世土塁1条・同土坑11基・同掘立柱建物跡2棟等が検出され、その後の協議により記録保存の措置をとることとなり、委託契約書の締結等諸準備が整った令和4年6月本調査に着手した。

## 第2節 調査の方法と経過

調査期間は令和4年6月13日～同年8月10日で、6月13日～17日土塁部分トレンチ設定後断ち割り、1～3トレンチ実測・遺物取り上げ、6月20日～24日重機により01.02調査区の表土剥ぎ、6月28日～7月11日3トレンチ拡張区・土塁南側部分遺構調査、7月12日～15日02調査区遺構プラン確定作業に移行。遺物取り上げを行いつつ、確認面確定のため重機による掘り下げを実施する。7月19日～26日遺構プラン確定作業・01井戸掘り下げ・ピット半截を行う。7月28日～8月4日ピット全掘・実測図作成、8月5日ドローンによる全景写真撮影を実施。8月6日～10日重機による埋め戻し、機材撤収を行い調査を完了とした。



第1図 周辺の遺跡

[S=1:50,000]

### 1. 米本城跡

四郭の直線部式、南北500m×東西150mの規模。城域に根古屋・ゆげ等の地名や月戸・腰郭・虎口等の施設を有する。これまでに、ab地点の調査を実施。b地点において、廃城後から近世にかけての屋敷地としての土地利用が解明された。

### 2. 米本辺田古遺跡

令和3年度に確認調査を実施し、遺構では中近世土坑13基・溝3条、遺物では15世紀後半～16世紀代の内耳土器等が出土した。

### 3. 七百所神社古墳

令和2年度に史跡整備の目的で古墳の確認調査実施時に、内耳土坑、風が衣塚を、図示している。

### 4. 正覚院院跡

鎌倉時代後期の清涼寺式遺跡加東山律が位置される。『八千代市の歴史』通史編上のP264～P276に釈迦如來・寺城内発見品の詳細、P376～P384に発掘による成果の詳細が掲載される。館跡は、二郭からなる防衛部分とその東側に一段低い畑型定部分から構成。南北120～160m×東西120mで台形状の平面をもつ。

これまでの調査成果から、13世紀～16世紀に機能したと想定される。

### 5. 堤内古遺跡

八千代市辺田前土地区画整理事業に伴う発掘調査において、中世については遺構ではT字型火葬墓2基、地下式坑(野坑)2基、V字断面の溝2条、遺物ではカワラケ、火鉢・内耳土坑、磁鉢等の土器類、源美が、常滑片口鉢・栗(赤焼)、瀬戸磁子、磁鉢、磁反皿、天目茶碗、香炉等で、遺構は大塚期～登原期に想定される。この他茶臼受部、板葺、礎が出土した。出土品は近世においても継続し、肥前系、堺系等の陶器が見られる。

### 6. 新堀宮跡遺跡

伝承として營跡とされるが、城内発掘調査(八千代市文化伝承館建設に伴う)において中世関連の遺構・遺物は確認されていない。

### 7. 井戸向遺跡

重田特定土地区画整理事業に先行した発掘調査において、中世については本遺跡のみで検出されており、遺跡北東側に集中して見られる。遺構では12世紀後半の基壇2基以上、15～16世紀の地下式坑24基、銭貨埋納土坑1基、遺物は草履から和鏡、青磁碗、短刀、15世紀後半～16世紀初葉を中心とした瀬戸磁子、平鏡、磁鉢、磁鉢小皿、天目茶碗、中国産青磁花瓶皿、土器では内耳土坑、土器磁鉢、カワラケ、瓦質火鉢等が出土した。

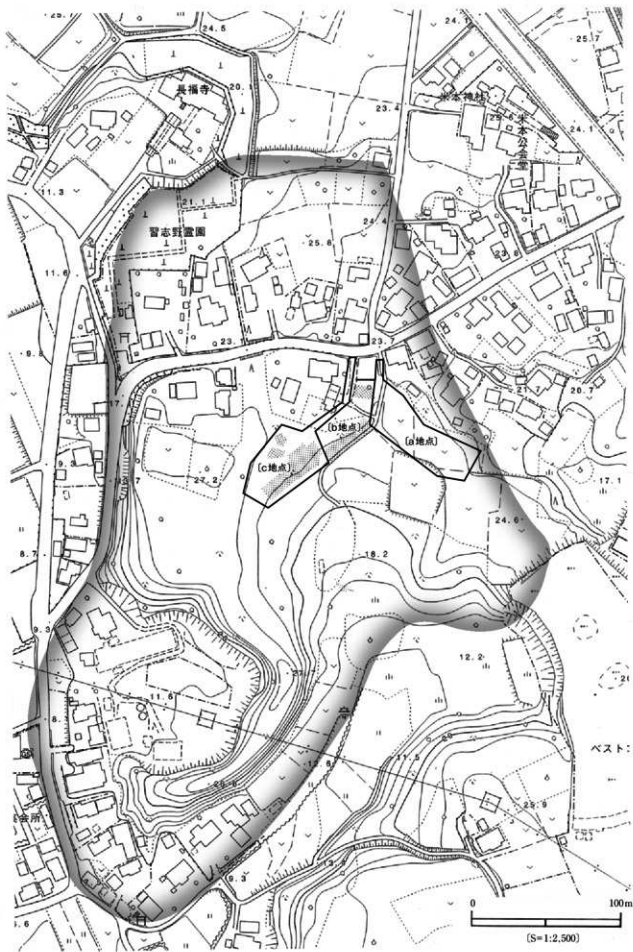
### 8. 白幡前遺跡

福祉施設建設に伴う発掘調査において、中近世の遺構・遺物が発見された。遺構は台地整形区画1基、ピット列2基、溝跡12条、掘立柱建物跡1棟、ピット24基等が、遺物は中世では中国産青磁無文直口碗、青磁縁透文碗、青磁椀花皿、土器では内耳土坑、土器磁鉢、カワラケ、常滑片口鉢・内耳土坑、瀬戸磁鉢、磁鉢小皿、折縁深皿で15世紀中葉～16世紀代を中心とする。中世末葉～近世では瀬戸鉄胎皿、菊皿、天目茶碗、美濃磁鉢、志野丸皿で16世紀後半～17世紀前半を中心とする。近世では瀬戸簡型香炉、片口、美濃磁鉢等で18～19世紀初頭を中心とする。土器ではカワラケ(能明皿)で17～18世紀前半に位置づけられている。その他板葺、逐機が出土した。これらの遺構・遺物から、15世紀中葉～19世紀に当地域有力者の居住域としての空間利用が想定されている。

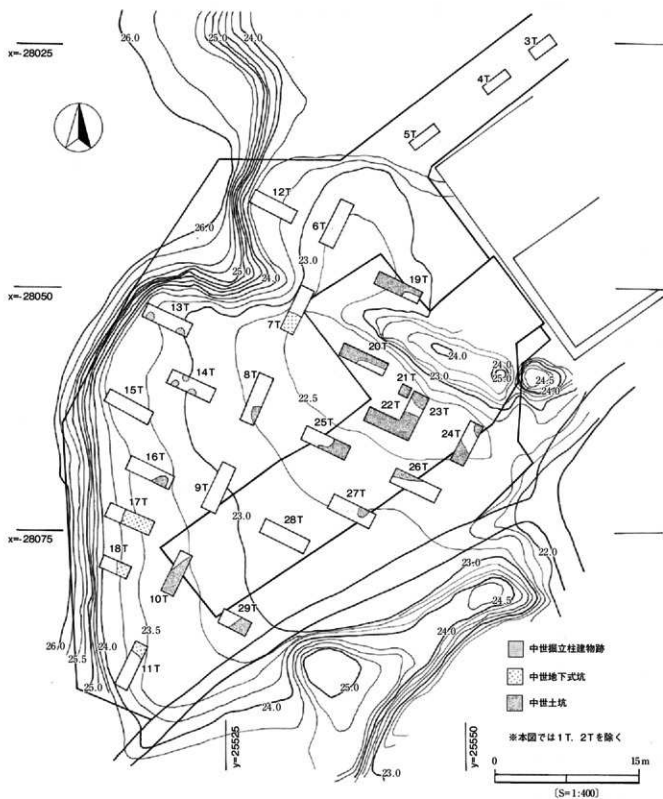


第2図 米本城跡測量図

(S=1:1,500) 〃北側特内はb地点c地点本調査区



第3図 調査地点

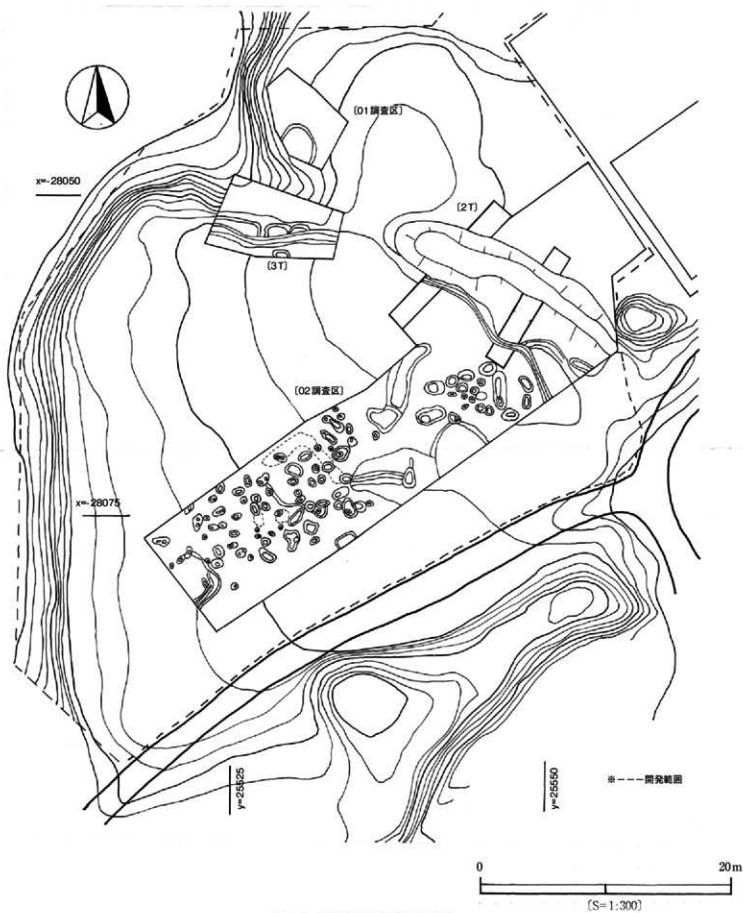


第4図 確認調査遺構確認状況図

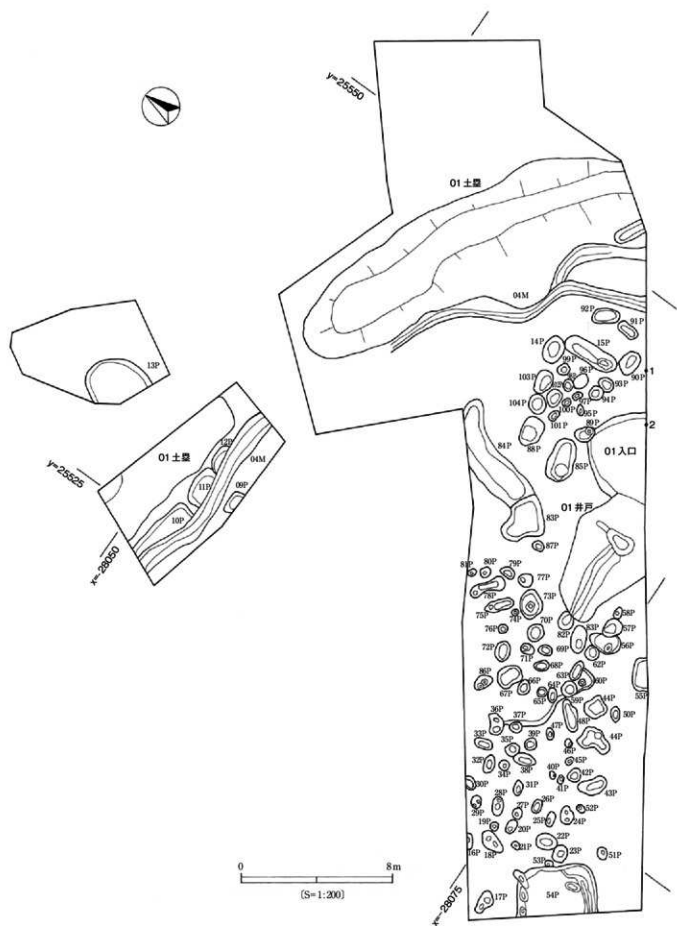


第5図 調査地点測量図

※基本25cmコンター



第6図 調査地点遺構配置測量図



第7図 遺構配置図

## 第2章 検出された遺構と遺物

### 第1節 確認調査概要(第4図・34図)

今回実施したc地点においては、確認調査範囲が本調査範囲・保存区域に分けられるため概要を示した。確認調査面積は2,048㎡である。遺構は、中世掘立柱建物跡2棟・土坑11基・地下式坑4基・土塁1条を確認し、遺物は土製釜・火鉢・内耳土鍋・土器指鉢・瀬戸指鉢・常滑片口鉢等が出土した。遺構では、保存区域の西側部分に地下式坑を確認している。本調査範囲では、明確な地下式坑は検出されなかった。遺物では、本調査時と同様な時期の土器類のほか、土錘等の生業に関わる出土品が見られる。

### 第2節 掘込型屋敷,01土塁,09~13P,04M(第10,11,12図・図版1.2)

#### 掘込型屋敷

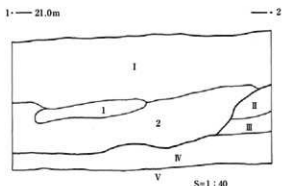
01土塁は、北側のb地点では南北方向でc地点北側では東西方向となり、西側台地突出部に至る。現在土塁と西側突出部間に開口部があるが、本来は繋がっていた。第5図に示すように西突出部から南北方向にかけて人為的に2.0~3.0m掘削して窪地状となっている。更に南東側に土塁状の高まりを有する。結果として北側40m×西側50m×東側40mで南側と北東側に開口部を持つ区画となり、掘込型屋敷地を形成している。

#### 01土塁

本調査区の土塁について言及する。全長33.0m・幅7.0m、標高は24.5~25.0mの規模をもつ。各トレンチについて説明を加える。各トレンチとも基盤となる土台層はハードローム層で、1Tでは、その上部にローム+ロームブロック層を0.4m積み上げる。土塁内側では下方に傾斜面を造り土塁頂部から1.6mの高低差で平坦面と成している。下位で04Mが切れる。2Tでは、土台上に1~4の積み上げ層があり、1Tより角度をつけて土塁頂部から2.2mの高低差で、土塁内側の平坦面に至る。下位を04Mに切られる。3Tでは、意識してハードローム土台を突出状に削り残している。ハードロームの土台は、下方に傾斜をもって内側に至りコの字状の掘り込み(10P~12P)が存する。ここでも下位で04Mに切られる。遺物は、土塁土台部・04M覆土中で、15世紀後半~16世紀前半の時間幅が見られる。

#### 09~13P

各ピットのデータは15°に掲げた。09Pは単独の方形土坑である。10~12Pは突出部南側に隣接した位置にある。04Mに切られており、規模は一部のみで方形及び長方形の平面形が想定される。並列しており、突出部内側に付随した施設と考えられる。13Pは突出部北側に検出された。覆土に焼土粒を含んでおり、カワラケが1点出土した。性格は不明である。

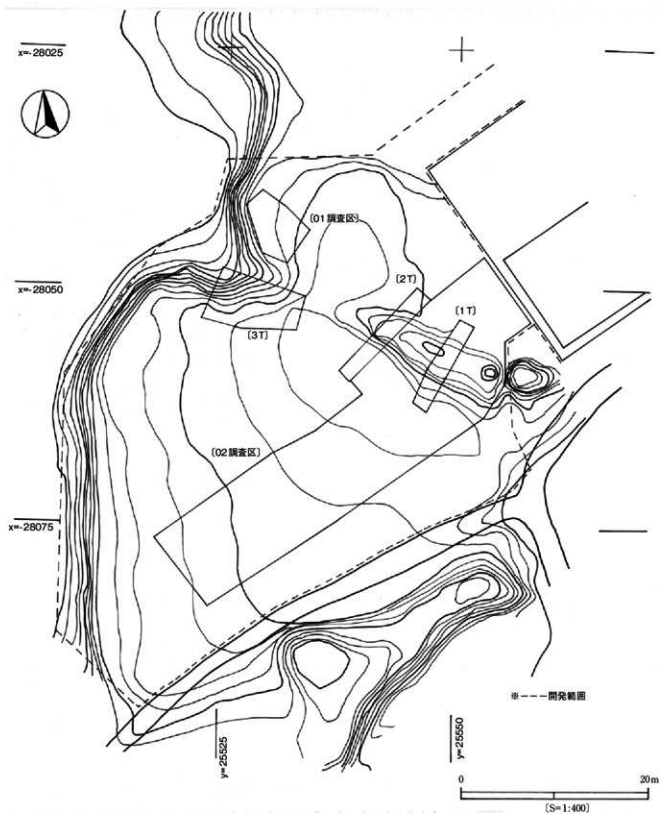


#### 基本層序土層説明

- I : 表土 暗褐色土。
- II : 淡褐色砂質粘土
- III : 淡灰白色砂質粘土
- IV : 淡灰白色粘土 黒色粒混入。
- V : 白色粘土
- VI : 白色粘土 茶色粒混入。
- Ⅶ : 淡黄色粘土
- Ⅷ : 茶黄色砂
- 1 : 淡褐色土 暗褐色土にⅡ層を含む。
- 2 : 暗褐色土 黒色土にⅡ層ブロック混入。

第8図 基本層序図

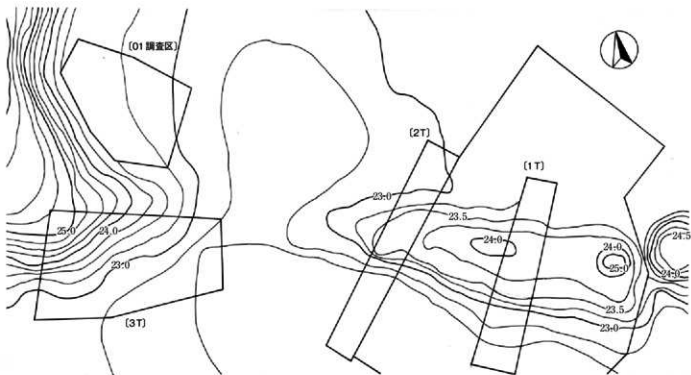




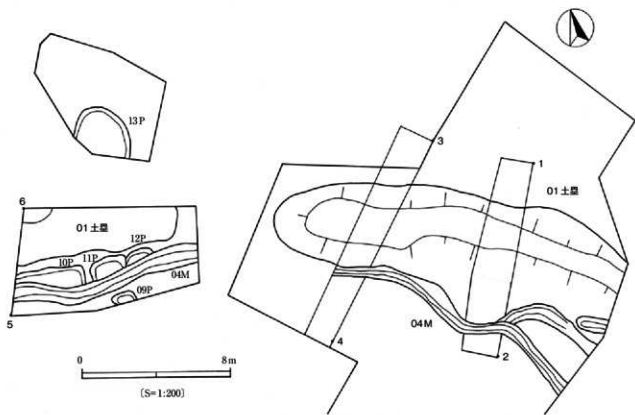
第9図 トレンチ・調査区配置図

#### 04M

西突出部南側から東西方向に土塁に並走した溝である。長さ30m×幅1.4m×深0.3mで、東側で一部土塁を切る。西側部分では近世以降の陶磁器片が出土している。1Tでは土塁張り出し部に沿うように掘り込まれていた。



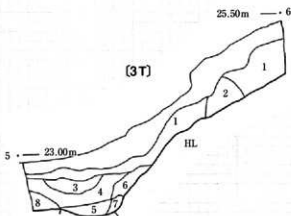
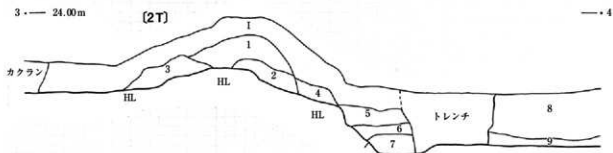
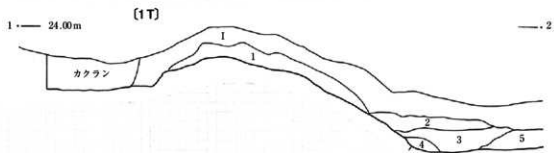
第10図 土塁部分地形測量図



第11図 01土塁等遺構配置図

基本層序(第8図)

遺構確認面は、Ⅱ～Ⅳ層上面を基本とし、各遺構の底面はⅤ層より上位となる。01井戸のみⅤ層以下Ⅷ層を坑底とする。詳細は17㉟〔第3節02調査区〕項・28㉟〔第7節整地面と出土遺物〕項参照



#### 01土盤1T土層説明

- 1: 表土  
 1: 褐色土 ローム土・ロームブロック混合土。ややしまり欠く。  
 2: 暗褐色土 ローム粒・黒色土混合層。ややしまり欠く。炭化粒混入。  
 3: 暗褐色土 2層類似。黒色土粒やや多い。炭化粒混入。ややしまり欠く。  
 4: 暗褐色土 3-5mm大ロームブロック+暗褐色土。しまりなし。  
 5: 褐色土 ローム土主体に黒色土粒含む。ローム粒少量含む。しまる。

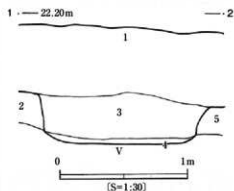
#### 01土盤2T土層説明

- 1: 表土  
 1: 褐色土 ロームブロック・ローム粒混合。しまりなし。ほそほそ。  
 2: 褐色土 1層類似。ややしまりあり。  
 3: 褐色土 ローム主体。ややしまりあり。  
 4: 褐色土 1層類似。ローム土やや多い。  
 5: 暗褐色土 黒色土・ローム粒混合層。焼土粒・炭化粒含む。しまりやや弱い。  
 6: 暗褐色土 5層類似。黒色土粒やや多い。  
 7: 暗褐色土 5層類似。しまりやや強い。粘土粒少量含む。  
 8: 暗褐色土 7層類似。白色粘土粒やや多い。  
 9: 褐色土 ローム土主体。黒色土粒・粘土粒含む。しまる。

#### 01土盤3T西側土層説明

- 1: 表土  
 1: 黄褐色土 ロームブロック細砂土。  
 2: 黒褐色土 ロームブロック混入。  
 3: 暗褐色土 黒色土・ローム粒混合土。3mm大-2cm大ロームブロック混入。黒色土の混入少ない。  
 4: 暗褐色土 3層類似。ロームブロックの混入やや少ない。  
 5: 暗褐色土 3層類似。ロームブロックの混入やや少ない。  
 6: 暗褐色土 黒色土・ローム粒含む。3mm大ロームブロック混入。  
 7: 暗褐色土 6層類似。ロームブロック混入やや多い。  
 8: 褐色土 1cm大ロームブロック。黒色土・ローム粒混合土。  
 ※1・2土層封土 3-8土層埋土

第12図 01土盤土層断面図



#### 09P土層説明

- 1: 暗褐色土 黒色土・ローム粒混入層。3-5mm大ロームブロック混入。  
 2: 褐色砂質粘土層  
 3: 暗褐色土 黒色土・ローム粒混入層。黒色土の割合多い。  
 砂質粘土ブロック混入。  
 4: 暗褐色土 粘土粒、焼土ブロック混入。  
 5: 暗褐色土 白色砂質粘土粒混入。

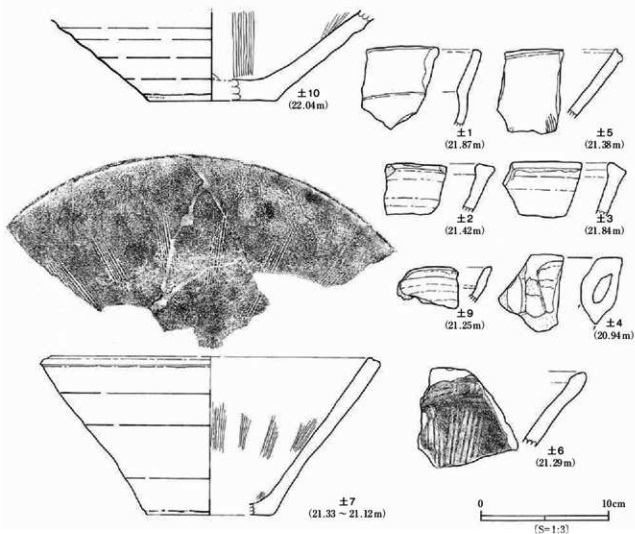
第13図 09P土層断面図

#### 3T遺構群遺構計測表 ※黒は黒色土、ローム粒はローム粒、ロームブロックはロームとする

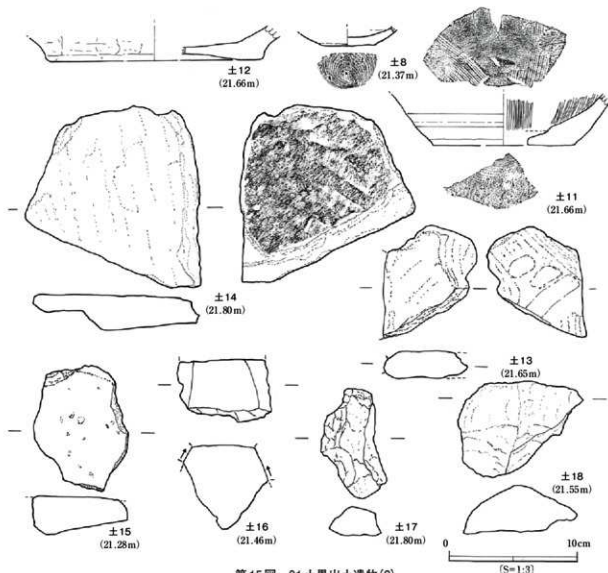
遺構番号	区別り	平面形状	主軸	断面形	長軸×短軸×深さ(m)	確認面	主な覆土	備考
09P	3T調査区	長方形小	N4°-W	箱形	1.28×0.37以上×0.4	日曜上面	暗褐色土(黒・ローム・ロブ含)	
10P	3T調査区	長方形	N3°-E	箱形	3.7×1.18以上×0.42	日曜上面	褐色土	
11P	3T調査区	長方形	N14°-W	箱形	2.04×0.9以上×0.44	日曜上面	褐色土	
12P	3T調査区	楕円形	N14°-W	箱形	1.5×0.6以上×0.32	日曜上面	褐色土	

#### 01調査区遺構計測表 ※黒は黒色土、ローム粒はローム粒、ロームブロックはロームとする

遺構番号	区別り	平面形状	主軸	断面形	長軸×短軸×深さ(m)	確認面	主な覆土	備考
13P	01調査区	不整形	N38°-E	浅い箱形	3.2以上×2.5×0.25	日曜上面	暗褐色土	下層よりカワケ片



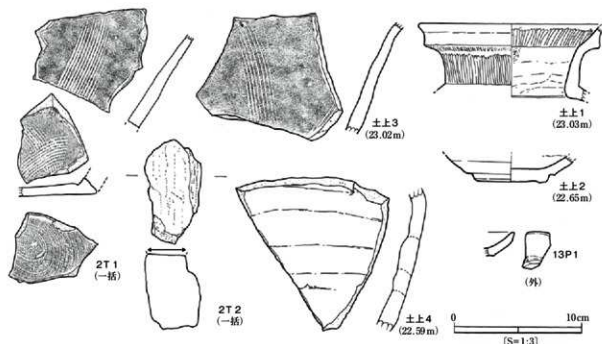
第14図 01土塁出土遺物(1)



第15図 01土層出土遺物(2)

01 土層遺物観察表

品番	器形	部位	計測値 (cm)			構成	色調	胎土	調整・文様等
			器高	口径	口径				
1	土器 内耳土鍋	口縁部片	-	-	-	真	内外黒褐色	雲母、長石、赤鉄	くすべ焼成。内外ロクロナデ。口縁内面方に横溝付。
2	土器 土器	口縁部片	-	-	-	真	内外黒褐色	雲母多量、長石、砂鉄	内外ロクロナデ。
3	土器 内耳土鍋	口縁部片	-	-	-	真	外黒褐色、内暗褐色	雲母、長石	酸化炭焼成。内外ロクロナデ。
4	土器 内耳土鍋	口縁内耳部分	-	-	-	真	外黒褐色、内暗褐色	雲母、長石多量	酸化炭焼成。内外ナデ調整。深法寺焼。16世紀。
5	土器 土器椀鉢	口縁部片	-	-	-	真	内外黒褐色	雲母、長石	くすべ焼成。内外ロクロナデ。器口6cm以上。縦い。1cm程度。
6	土器 土器椀鉢	口縁部片	-	-	-	真	内外黒褐色	長石、雲母	くすべ焼成。内外ナデ調整。器口は5cm。輪4cmと広い。内面磨面。
7	土器 土器椀鉢	口縁-底部1/5	123	270	100	真	外淡褐色、内淡黄褐色	雲母、石英	ロクロ調整。内外ロクロナデ調整。内外ナデ。調整。(測器式義)多。器口8-10cm。15世紀。
8	瀬戸 緑釉鉢小皿	底部1/2	遺存高1.5	-	4.0	真	外灰白色、内淡黄褐色	5層	内外ロクロナデ調整。底部30度斜切り磨し。16世紀。
9	瀬戸 緑釉小皿	口縁1/8	-	-	-	真	内外淡黄褐色	やや粗い	内外ロクロナデ。古瀬戸後期調整。15後半。
10	瀬戸 緑釉	底部-胴部下半1/4	遺存高7.0	-	10.0	真	内外緑褐色(緑釉)	長石、石英	ロクロ調整。ロクロナデ。内面ロクロ目調整。器口9cm。本器16世紀。
11	瀬戸 緑釉	底部-胴部下半	-	-	-	真	内外緑褐色	5層	ロクロ調整。内外ロクロナデ調整(日本産品の痕跡)。底部30度斜切り磨し。15後半。
12	常滑 壺	底部1/4	遺存高2.7	-	17.0	真	外緑褐色-暗褐色、内暗褐色-白色	長石、石英	輪轆手ロクロ調整。内外磨面下磨ヘラナデ。内ナデ。16世紀。
13	石製品 磨石か	-	縦長9.0	横長7.2	厚さ2.0	重3.90g	緑泥片岩	両面再利用品。左側面に切込みの磨りが見られる。両面に両面研削時のノミ痕が3ヶ所発見される。	
14	石製品 輪研片	-	縦長14.1	横長13.6	厚さ2.6	重3.720g	緑泥片岩	両面研削。裏面にノミ痕3ヶ所あり。	
15	石製品 白い(し)磨石	破片	縦長9.7	横長7.4	厚さ3.0	重3.262g	輝石安山岩か	上面において平削、やや磨られた痕跡あり。	
16	石製品 磨石	破片	縦長4.8	横長7.0	厚さ6.5	重3.282g	安山岩	磨られる面は上面、上面、西側面の4面である。	
17	石製品 石等一部小	破片	縦長8.7	横長5.0	厚さ2.4	重3.302g	安山岩か	石等の一部と想定されるが部説不明。	
18	石製品 石等一部小	破片	縦長7.2	横長9.5	厚さ3.6	重3.257g	安山岩か	石等の一部と想定されるが部説不明。	
19	アクリル	-	-	-	-	-	-	実測せず。	
20	アクリル	-	-	-	-	-	-	実測せず。	



第16図 土壘等出土遺物

01 土壘上遺物観察表

器種	器形	部位	計測値(cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等	
			器高	口径	底径					
1 土師器	壺	口縁一帯 部 1/4	遺存高 5.7	復原口径 14.5	-	-	良	内外赤褐色 (赤褐色)	長石、雲母	古墳時代前期。外口唇部ナテ、肩部縦位ヘラ磨き、外口唇部縦位ヘラ磨き、肩部ヘラナテ。
2 瀬戸	瓦輪平碗	底部 1/2	-	-	-	-	良	外淡黄色 内淡黄灰色(輪軸)	石英、ち密	ロクロ調整。底部周りに高台、内面輪軸、内面口縁部、15世紀。
3 瀬戸	椀	側部片	-	-	-	-	良	内外淡黄灰色(輪軸)	長石、ち密	ロクロ調整。径目8寸。16世紀。
4 常滑	壺	側部片	-	-	-	-	良	外赤茶色内淡赤色	石英、ち密	輪磨みロクロ調整。15～16世紀。

土壘2 トレンチ遺物観察表

器種	器形	部位	計測値(cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等	
			器高	口径	底径					
1 瀬戸	椀	底部一帯部	-	-	-	-	-	内外緑茶色	ち密	底部右側縁赤磨り難し。径目13本、底部内の径目十字文。大宮層 16世紀。
2 石製品	台石・磐石	破片	縦長 8.2	横長 4.5	厚さ 5.8	重さ 259g	-	-	雲母片岩	平削面で磨られる。

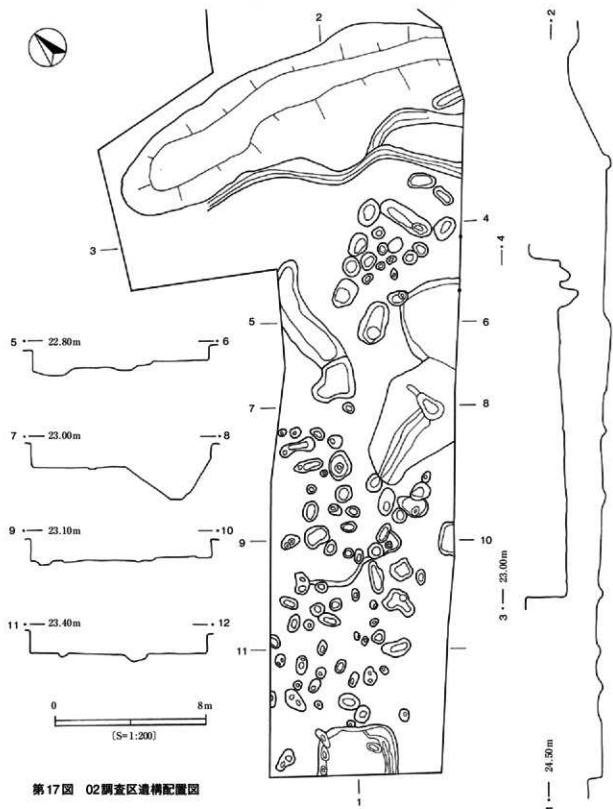
13P 出土遺物観察表

器種	器形	部位	計測値(cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等	
			器高	口径	底径					
13P 1	土師	カワケ	口縁一帯部	-	-	-	良	内外緑褐色	雲母、長石、砂粒	ロクロナテ、小型

### 第3節 02調査区遺構概要(第17図・図版3.4)

調査の結果、ビット91基、01井戸、01入口を検出した(遺構名は10<sup>号</sup>:第7図参照)。遺構確認面については、遺構廃絶後の整地層が20～30cmと厚く困難を極めた。整地層中の遺物を適宜取り上げながら、人力、重機を併用して掘り下げた。層位は最終的には、北側及び中央遺構群ではIV層上面、南側遺構群でIII層上面において確認面となった(11<sup>号</sup>:基本層序参照)。遺構確認面の標高は、北側で21.4m、中央で21.7m、南側で22.0mと南側に向かって高くなっている(28<sup>号</sup>:遺構確認面の高さ参照)。確認面での覆土層については、01入口北側のビット群では暗褐色土に黒色土・ロームブロックを含む一見すると、カラン土のような土層であった。下げ進むと円形状の平面プランが全体に確認された。中央遺構群西側のL字状段差内(24<sup>号</sup>:第24図参照)ではIV層上面の確認面で暗褐色土の覆土堆積が見られ、下げ進むとビット群の平面プランが確認された。

遺構群として種別したのは、北側の01井戸以北では、ほぼ遺構底面がV層(白色粘土層)で井戸を含めて、水に関わる遺構と考えたからである。中央遺構群では、浅いビット群が密集していることから分類した。南側遺構群は掘立柱建物掘り方に想定される深いビット群や楕円形プラン内に複数の掘方が見られたことから、建物エリアと考えた。また54Pについては鍛冶遺構とも考えている。

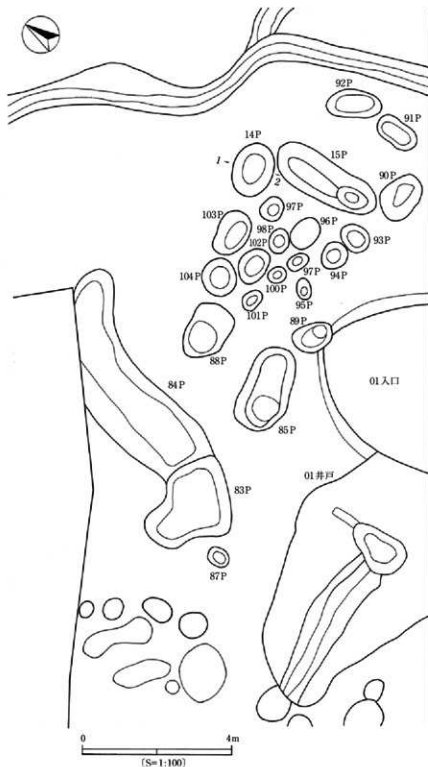


第17図 O2調査区遺構配置図

第4節 北側遺構群と出土遺物(第18～23図・図版6～8)

01入口,01井戸,83.84.87Pとその北側に連なる三角形の集合体ピット群からなる。個々の遺構について説明を加える。

83.84Pはほぼ同一遺構として捉えてよい。深さ・覆土も同様で、底面はV層の白色粘土層になる。



第18図 O2調査区北側遺構群配置図

られる。深さは楕円形態の14.15.88.102.103.104Pと円形でやや大振りな93.94Pでは24～50cmと深く、円形で小振りな95.97.98.100.101Pでは10cm程度と浅い。これらのピット群はⅣ層～Ⅴ層を底面としており、水を貯める事は可能である以外は、目的は不明である。

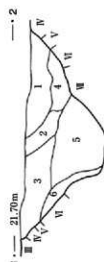
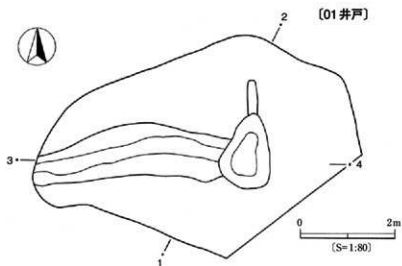
遺物もまとめて出土した。

**01入口**は一段高い台状で、南東の土塁と01土塁の中間に位置し、出入りに該当することから命名した。台部は半円形で調査区外に及ぶ。下位の遺構確認面と0.4～0.5mの段差があり、台部を意図した削り残しと考えられる。

**01井戸**は、01入口と共有した遺構で、重複はない。計画的配置と想定される。方位はほぼ東西方向である。平面形は壁の立ち上がりから想定すると隅丸三角形で、長軸7.1m×短軸4.32m×深さ2.29mとなっている。覆土はロームブロック混入の褐色土ないし暗褐色土で、人為的埋土である。遺構掘り下げ時においては、底面から湧水していたが、調査時が夏場だったこともあり、その後枯水した。汲み水口は西方向にスロープが見られるほか、底面から北方位に幅20cmの壁の掘り込みが確認されたことから、井戸ないし貯水施設としての機能が想定される。

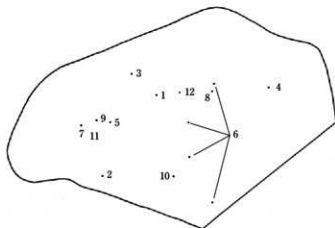
**三角形ピット群**は、01入口北側に接し、ピット15基からなる。東西方位で88Pを頂点とし、15Pを基部としている。掘り下げの際は、当初14P.15Pと88Pは確認されたが、更に掘り下げた結果、円形・楕円形態のピットが検出された。これらのピットは、緩やかな三角形の凹み内に作



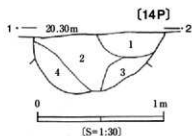


01井戸土層説明

- 1: 暗褐色土 黒色土に2-3cm大ロームブロック混入。
- 2: 褐色土 ローム土少量含む。黒色土含む。5-10cm大ロームブロック混入。
- 3: 褐色土 2層類似。黒色土やや多い。
- 4: 暗褐色土 黒色土・5-15cm大ロームブロック混入土。
- 5: 褐色土 2層類似。ロームブロック主体。
- 6: 暗褐色土 1-2cm大ロームブロック・黒色土混合層。



第19図 01井戸遺構実測図



14P土層説明

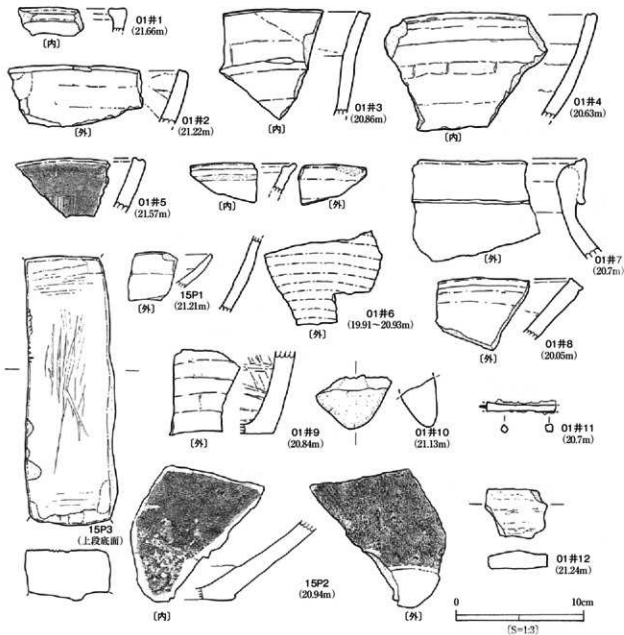
- 1: 暗褐色土 ローム粒・黒色土混合層。ややぼそぼそ。
- 2: 暗褐色土 1層類似。黒色土の混入多い。
- 3: 黒褐色土 褐色粘土。黒色土混合層。
- 4: 褐色土 褐色粘土。白色粘土混合層。

第20図 14P土層断面図

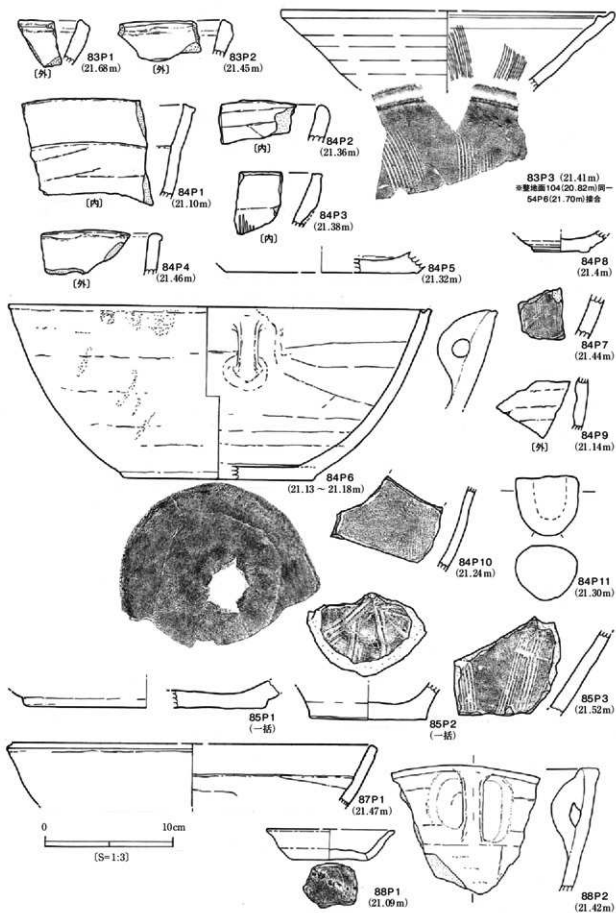
遺物は、01井戸覆土中から深型の内耳土鍋、瀬戸卸目付大皿、常滑甕・片口鉢等で、時期は15世紀代～16世紀初頭である。全てが埋戻し土中からの出土である。15Pからは大型の砥石が発見された。83.84Pでは、83P3の瀬戸搦鉢が01井戸覆土中及び南側遺構群中の54P覆土中の他遺構間での接合であることから、遺構の同一時期設定が可能である。84P6の内耳土鍋は遺構内からつぶれた状態で出土し、底面中央に焼成後の穿孔が見られる。遺構廃絶との関連性も考慮される。90P1の青磁盤は土壘2T中と90Pから1m離れた整地土層下部と離れた地点からの接合である。瀬戸搦鉢と青磁盤は、ともに15世紀代の所産とされる。このことから、遺構は15世紀代～16世紀初頭に位置付けられよう。

北側遺構群遺構計測表 ※黒は黒色土、ローム紋はロ紋、ロームブロックはロポとする

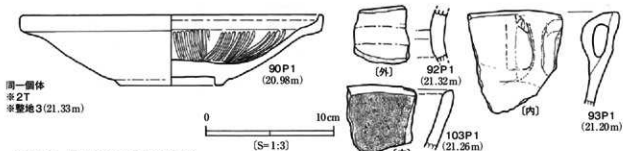
遺構番号	区別り	平面形状	形状	断面形状	長軸×短軸×深さ(m)	階段面	土壌層上	備考
14P	2階遺構区	楕円形	N70°-E	楕形	1.65 × 1.1 × 0.49	互層上面	暗褐色土(ロ紋・黒炭含層)	V層(白色粘土)を20cm掘り込む。
15P	2階遺構区	楕円形	N2°-W	円形	3.0 × 1.1 × 0.36→0.5	互層上面	暗褐色土	土壌で大型破片、骨片(1枚)・土器(現代)
83P	2階遺構区	不整形形	N64°-W	楕状	2.42 × 2.1 × 0.37	互層上面	暗褐色土(褐色ブロック含)	84Pにほぼ同一、右側(内縁)15cm後退
84P	2階遺構区	長方形	N22°-E	楕状	5.74 × 1.8 × 0.39	互層上面	暗褐色土(褐色ブロック含)	下層から内耳土層、古瀬戸甲陶器等出土
85P	2階遺構区	楕円形	N89°-E	楕形	2.35 × 1.25 × 0.3	互層上面	暗褐色土(粘土ブロック含)	土器破片(底部部)片出土
87P	2階遺構区	円形	-	楕状	0.6 × 0.48 × 0.22	互層上面	暗褐色土(粘土ブロック含)	内耳土層片
88P	2階遺構区	不整形形	S86°-E	楕形	1.58 × 1.05 × 0.27	互層上面	暗褐色土(黒色土)	内耳土層片、カタケ
89P	2階遺構区	不整形形	S68°-E	楕形	1.05 × 0.7 × 0.41	互層上面	褐色土(粘土ブロック含)	
90P	2階遺構区	不整形形	N89°-E	楕形	1.35 × 0.95 × 0.39	互層上面	褐色土(ロームブロック含)	中層より青磁碗、他に同一型体あり。
91P	2階遺構区	楕円形	N4°-E	楕状	1.15 × 0.6 × 0.13	互層上面	暗褐色土(粘土ブロック含)	
92P	2階遺構区	楕円形	N31°-W	楕状	1.45 × 0.75 × 0.22	互層上面	暗褐色土(粘土ブロック含)	土器破片(北底面)
93P	2階遺構区	円形	-	楕状	0.85 × 0.7 × 0.22	互層上面	暗褐色土	内耳土層片
94P	2階遺構区	円形	-	楕状	0.75 × 0.7 × 0.24	互層上面	暗褐色土	V層中底面
95P	2階遺構区	楕円形	N50°-E	楕状	0.6 × 0.4 × 0.152	互層上面	暗褐色土	
96P	2階遺構区	円形	-	楕状	0.9 × 0.7 × 0	互層上面	暗褐色土	掘り込み部分に浅い・凹状。
97P	2階遺構区	不整形形	S68°-E	楕状	0.6 × 0.4 × 0.11	互層上面	暗褐色土	
98P	2階遺構区	円形	-	楕状	0.65 × 0.6 × 0.09	互層上面	暗褐色土	
99P	2階遺構区	円形	-	楕状	0.7 × 0.6 × 0.17	互層上面	暗褐色土	
100P	2階遺構区	円形	-	楕状	0.5 × 0.45 × 0.07	互層上面	暗褐色土	
101P	2階遺構区	不整形形	S84°-E	楕状	0.43 × 0.43 × 0.16	互層上面	暗褐色土	V層中底面
102P	2階遺構区	円形	-	楕形	1.0 × 0.75 × 0.28	互層上面	褐色土(ロームブロック含)	V層中底面
103P	2階遺構区	楕円形	N78°-E	楕形	1.25 × 0.87 × 0.25	互層上面	褐色土(ロームブロック含)	V層中底面、内耳土層片
104P	2階遺構区	円形	-	楕形	0.98 × 0.95 × 0.28	互層上面	褐色土(ロームブロック含)	V層中底面
01井戸	2階遺構区	隅丸三角形	N89°-E	扇状	7.10 × 4.32 × 2.39	Ⅲ-Ⅳ層上面	暗褐色土(褐色土)	V層中底面、古瀬戸甲陶器等出土。
01入口	2階遺構区	半円形	N62°-E	楕形	4.7 × 3.9 × 0.42	互層上面	表土下に礎石	礎石を全す。



第21図 北側遺構群出土遺物(1)



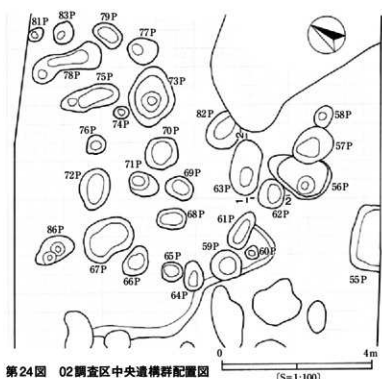
第22図 北側遺構群出土遺物(2)



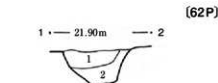
第23図 北側遺構群出土遺物(3)

北側遺構群遺物観察表

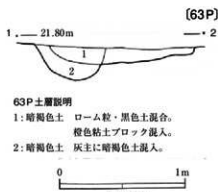
品目	器種	器彩	部位	計測値 (cm)			備成	色調	胎土	調査・文書等
				器高	口径	底径				
01昇戸1	土器	内耳土器	口縁部片	-	-	-	片	外黒褐色 内暗褐色	炭石、石英 長石	内内口ワナナテ。
01昇戸2	土器	内耳土器	口縁部片	-	-	-	片	内内黒褐色	長石、石英 砂鉄	内内ナテ調整。
01昇戸3	土器	内耳土器	口縁部片	-	-	-	片	内外黒褐色	炭石、長石 砂鉄	くすべ焼成。内外ナテ調整。内面口縁下に深い溝。
01昇戸4	土器	内耳土器	口縁部片	-	-	-	片	外黒褐色 内内褐色	炭石、石英 長石、砂鉄	焼成未焼成。内外口ワナナテ調整。内面口縁下段に深い溝。
01昇戸5	土器	土器群	口縁部片	-	-	-	片	外黒褐色 内内褐色	長石、炭石 砂鉄	くすべ焼成。内外ナテ調整。内内ナテ調整。横目本取不明。
01昇戸6	土器	甗	口縁部片	-	-	-	片	内外赤褐色	ち密	口ワナナテ調整。古瀬口は折断面。15 後半。
01昇戸7	漆器	漆	口縁部片	-	-	-	片	外赤褐色 内暗褐色～漆赤褐色	ち密	輪郭み口ワナナテ調整。9型式15 後半。
01昇戸8	漆器	漆	口縁部片	-	-	-	片	外赤褐色内暗褐色	長石、石英	口ワナナテ調整。9型式のみ。
01昇戸9	漆器	漆	口縁部片	-	-	-	片	外赤褐色内暗褐色	長石、石英	口ワナナテ調整。内外ナテ調整。
01昇戸10	石製品	磨石	横片	縦長4.0	横長5.7	厚さ2.7	重さ53.6g			材質不明
01昇戸11	金属製品	鉄製釘	両端欠	遺存長5.7	幅0.65	厚さ0.6	重さ6.5g			鉄分を含んだ不明な金属物。
01昇戸12	金属製品	鉄製釘	横片	縦長3.9	横長4.9	厚さ1.4	重さ32.8g			
15P1	土器	カワラ	口縁部片	-	-	-	片	内外暗褐色	炭石、長石	口ワナナテ調整。
15P2	土器	片口鉢	底部	-	-	-	片	内外暗褐色	石英、長石	内外ナテ。内面磨り調整。
15P3	石製品	大型磨石	底部	縦長20.9	横長7.0	厚さ3.9	重さ349.0g			炭鉄質
83P1	土器	内耳土器	口縁部片	-	-	-	片	外赤褐色内暗褐色	炭石、長石	口ワナナテ調整。内外口ワナナテ。外面磨り付着(全面)
83P2	土器	内耳土器	口縁部片	-	-	-	片	外赤褐色内暗褐色	炭石、長石	口ワナナテ調整。内外口ワナナテ。外面磨り付着(全面)
83P3	土器	甗	口縁部片	遺存長6.1	幅2.6	-	片	内外赤褐色(磨滅)	長石、ち密	口ワナナテ調整。横目13本。古瀬口は折断面。15 後半。01昇戸104に接合。54P6に同一調整。
84P1	土器	内耳土器	口縁部片	-	-	-	片	内外黒褐色	炭石、長石	くすべ焼成。口ワナナテ調整。外ナテ。内ヘナナテ。横目焼。
84P2	土器	内耳土器	口縁部片	-	-	-	片	外赤褐色内暗褐色	炭石、長石	焼成未焼成。外ナテ。内ヘナナテ。
84P3	土器	甗	口縁部片	-	-	-	片	外赤褐色内暗褐色	炭石、長石	くすべ焼成。外ナテ。内ヘナナテ。
84P4	土器	内耳土器	口縁部片	-	-	-	片	内外赤褐色	炭石、長石	焼成未焼成。外ナテ。内ナテ。
84P5	土器	内耳土器	底部1/5	遺存長1.7	-	15.0	片	内外暗褐色	炭石、石英	焼成未焼成。外ナテ。内ナテ。
84P6	土器	内耳土器	口縁部片	33.5	32.4	14.8	片	外内褐色 内内暗褐色	炭石、長石 少量含む	輪郭み成形後口ワナナテ調整。外ナテ。内ヘナナテ。口径から2.3cm内側に深い溝が走る。内面口縁部～側部磨り付着。土器群に属する。15 後半。
84P7	土器	土器群	側部片	-	-	-	片	外赤褐色内暗褐色	炭石、長石	口径は5 cmのみ。
84P8	甗	甗	底部全周	遺存長1.6	-	4.2	片	外赤褐色内暗褐色	ち密	口ワナナテ調整。底部より高付。作部下層に傾斜ヘナテ調整。古瀬口15 後半。
84P9	甗	甗	側部片	-	-	-	片	外赤褐色内暗褐色	ち密	口ワナナテ調整。外面磨り(輪郭のみ)。内面口ワナナテ。
84P10	甗	甗	側部片	-	-	-	片	内外赤褐色内暗褐色	ち密	口ワナナテ調整。横目9本。二次焼成により磨り付着。大調整。
84P11	石製品	磨石	1/2遺存	遺存長4.6	幅5.0	厚さ1.6	重さ136.6g			炭鉄質
85P1	土器	内耳土器	底部1/3	遺存長2.3	-	18.6	片	内暗褐色内暗褐色	炭石、長石	1/2以上焼成。外ナテ。外面磨り付着(全面)に磨り付着。
85P2	土器	甗	底部1/3	遺存長2.9	-	9.2	片	内内白色 外赤褐色 底面灰色	長石、石英 砂鉄、炭石	焼成未焼成。口ワナナテ調整。破損付着。横目は横く2～4本取。炭石、石英、砂鉄に含有している。
85P3	土器	甗	側部片	-	-	-	片	内外暗褐色	炭石、長石	焼成未焼成。口ワナナテ。横目10本。
87P1	土器	内耳土器	口縁部片	遺存長4.6	29.0	-	片	外赤褐色内内白色	炭石、石英 長石	焼成未焼成。口縁部のみ。輪郭み成形後口ワナナテ調整。外ナテ口ワナナテ。内面口ワナナテ。外ナテ。外面磨り付着。
88P1	土器	カワラ	口縁部片	25	10.0	5.8	片	内外暗褐色	炭石、長石 砂鉄	内外口ワナナテ。底部右同軸面切り離し。セイナ(88P7)と88P7同一器。接合せず。
88P2	土器	内耳土器	口縁部片	-	-	-	片	内外黒褐色	炭石、長石	くすべ焼成。内外ナテ調整。外面磨り付着。
90P1	中国	青銅製銅鏡	口縁部片	5.5	23.7	8.0	片	内外青褐色～赤褐色		口ワナナテ調整。内面口縁下に深い溝。その下から断面が非円形断面の銅鏡が少量見える。鏡身外面に無数の凹点。凹点の直径は0.5mm程度。凹点の深さは0.1mm程度。凹点の数は約1300～1400に相当する。なお「青銅鏡」は武上の威徳堂の一種。
92P1	土器	甗	底部	-	-	-	片	内外赤褐色	炭石、長石	焼成未焼成。口ワナナテ調整。内面ヘナナテ。北焼成。
93P1	土器	内耳土器	口縁部片	-	-	-	片	外赤褐色内内褐色	炭石、長石	焼成未焼成。外ナテ口ワナナテ。内ヘナナテ。
103P1	土器	内耳土器	口縁部片	-	-	-	片	内外黒褐色	炭石、長石	くすべ焼成。内外口ワナナテ。



第24図 O2調査区中央遺構群配置図



62P土層説明  
1: 灰色土 灰主体。  
2: 暗褐色土 黒色土・ローム粒混合。



63P土層説明  
1: 暗褐色土 ローム粒・黒色土混合。  
褐色粘土ブロック混入。  
2: 暗褐色土 灰主に暗褐色土混入。

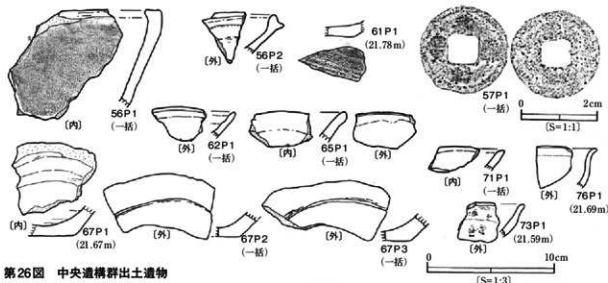
中央遺構群遺構計測表 赤黒は黒色土、ローム粒はローム、ロームブロックはロームブロックとする

遺構番号	区画内	平面形状	土層	断面形	長軸×短軸×深さ(m)	確認面	主要土質	備考
55P	02調査区	隅入方形小	N40°E	段状	1.8×0.7以上×0.14	瓦層上面	ローム粘土	部分の土層化面あり
56P	02調査区	楕円形	N12°W	段状	1.7×1.15×0.55	瓦層上面	白色粘土	V層中位部 溝戸遺跡大塚1内土層断片
57P	02調査区	不整形円形	N20°E	段状	1.05×0.9×0.45	瓦層上面	白色粘土	
58P	02調査区	円形	-	段状	0.7×0.5×0.29	瓦層上面	白色粘土	
59P	02調査区	円形	-	段状	0.8×0.8×0.26	瓦層上面	白色粘土	
60P	02調査区	円形	-	段状	0.4×0.5×0.29	瓦層上面	白色粘土	
61P	02調査区	楕円形	N46°E	段状	1.1×0.5×0.24	瓦層上面	白色粘土	カワラキ1基部
62P	02調査区	不整形円形	N82°E	U字状	0.8×0.75×0.32	瓦層上面	灰色土(灰・中層)	
63P	02調査区	楕円形	N60°E	U字状	1.5×0.8×0.33	瓦層上面	暗褐色土(貯蔵用施設土層)	2層に灰層あり
64P	02調査区	楕円形	N60°E	U字状	0.8×0.45×0.31	瓦層上面	暗褐色土(暗褐色土)	
65P	02調査区	円形	-	段状	0.55×0.5×0.12	瓦層上面	暗褐色土	溝戸遺跡は赤黒大塚1(15m-16m)
66P	02調査区	不整形円形	S48°E	段状	0.9×0.6×0.19	瓦層上面	暗褐色土(褐色ロアウ)	
67P	02調査区	楕円形	S70°E	段状	1.4×1.0×0.18	瓦層上面	暗褐色土(褐色ロアウ)	内瓦土層断片
68P	02調査区	楕円形	N24°W	段状	0.8×0.6×0.17	瓦層上面	暗褐色土(褐色ロアウ)	
69P	02調査区	楕円形	N14°W	段状	0.7×0.6×0.15	瓦層上面	暗褐色土(褐色ロアウ)	
70P	02調査区	円形	-	段状	0.9×0.85×0.16	瓦層上面	暗褐色土(褐色ロアウ)	
71P	02調査区	楕円形	N16°W	段状	0.8×0.6×0.24	瓦層上面	暗褐色土(褐色ロアウ)	カワラキ1基部
72P	02調査区	楕円形	N62°E	段状	1.15×0.8×0.31	瓦層上面	暗褐色土(褐色ロアウ)	
73P	02調査区	不整形方形	N38°E	段状	1.6×1.25×0.46	瓦層上面	暗褐色土(白色粘土)	カワラキ1基部
74P	02調査区	円形	-	段状	0.4×0.3×0.17	瓦層上面	暗褐色土(褐色ロアウ)	
75P	02調査区	楕円形	N48°W	段状	1.6×0.55×0.31	瓦層上面	暗褐色土(褐色ロアウ)	
76P	02調査区	円形	-	段状	0.5×0.5×0.33	瓦層上面	暗褐色土(褐色ロアウ)	中層から白磁焼(15m)
77P	02調査区	円形	-	段状	0.85×0.7×0.21~0.32	瓦層上面	暗褐色土(褐色粘土)	
78P	02調査区	楕円形	N50°W	段状	0.2×0.4×0.14~0.23	瓦層上面	暗褐色土(褐色粘土)	
79P	02調査区	楕円形	N2°E	段状	0.8×0.55×0.24	瓦層上面	暗褐色土(褐色粘土)	
80P	02調査区	円形	-	段状	0.6×0.55×0.28~0.29	瓦層上面	暗褐色土(褐色粘土)	
81P	02調査区	不整形円形	N52°W	段状	0.4×0.3×0.24	瓦層上面	-	
82P	02調査区	円形	-	段状	0.9×1.1×0.38	瓦層上面	暗褐色土	
86P	02調査区	楕円形	S60°E	段状	1.1×0.7×0.28~0.37	瓦層上面	暗褐色土	

第25図 62P・63P土層断面図

## 第5節 中央遺構群と出土遺物(第24~26図・図版6~8)

01井戸出入口西側と北側につながるピット群からなる。前述したように、01井戸出入口南西側の変形したL字状段差から北側部分をエリアとして設定した。個々の遺構について説明を加える。検出されたピットは全体に浅い。20cm程度の深さを有するものは55P.65~71P.74P.78P.79Pで、深さ40cm以上の深さを有するものは、56P.57P.73Pの3基のみである。南側遺構群のピット深度とは、明確な相違である。これら浅いピット群は、L字状段差確認時において、暗褐色土に覆われていたため、掘り下げた結果、プランを確定できたので、遺構として認められたと考える。覆土に特徴的な遺構として、62.63Pがあげられる。62Pは、上層に灰層が充填されていた。63Pは2層に灰層を主体にした暗褐色土が堆積していた。灰を目的とした貯蔵用施設とも考えられる。その他、遺構確認面において白色粘土塊が71.72.76P周辺から検出された。また遺構プランでは円形、楕円形が主である。55Pが方形で、ここでは唯一の例となる。両者とも、性格不明である。



第26図 中央遺構群出土遺物

中央遺構群遺物観察表

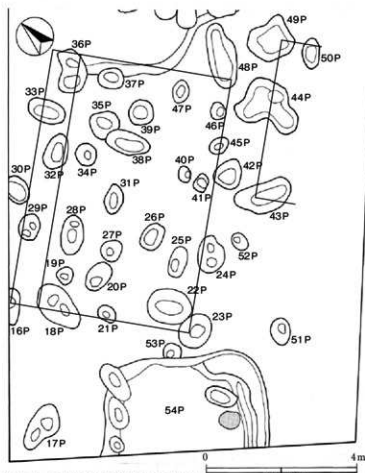
品目	器種	部位	計測値(cm)			焼成	色調	胎土	調査・文様等
			器高	口径	底径				
56P1	土器	内庫土器	-	-	-	良	外黒褐色・内澄褐色	磁雲母多含、長石	内外クロクナダ。外面保存者。堂縁系流注令縁。
56P2	土器	口縁部片	-	-	-	良	内外黒褐色(縁輪)	やや重たい	口クロ調整。内外面に保存者。大室1段階・B系高。
57P1	金属製品	銭貨(圓)	外径 2.5	内径 0.7	厚さ 0.15	重さ 2.1g	-	-	銭貨 国産貨幣(神保 1200 年)小。
61P1	土器	口縁部片	-	-	-	良	外淡褐色・内淡褐色	雲母・長石・赤色粒・砂粒	内ナダ調整。底面外面回転糸切り難し。飯具状保存。
62P1	土器	口縁部片	-	-	-	良	内外淡黄褐色	雲母・長石・小石粒・砂粒	内外クロクナダ。
65P1	土器	口縁部片	-	-	-	良	内外淡褐色	長石、雲母、砂粒	内外クロクナダ。外面保存者。
67P1	土器	口縁部片	-	-	-	良	外暗灰色・内灰白色	長石、雲母、砂粒	内外クロクナダ。外面保存者。
67P2	土器	口縁部片	-	-	-	良	外暗黄褐色・内灰色	雲母、長石	覆瓦片焼成。内外クロクナダ。外面保存者。
67P3	土器	口縁部片	-	-	-	良	外暗灰色・内灰白色	雲母、石英	覆瓦片焼成。内外面にクロクナダ。
71P1	土器	口縁部片	-	-	-	良	内外淡褐色	長石、雲母、砂粒	口クロ調整。内外面に保存者。
73P1	土器	口縁部片	-	-	-	良	内外淡褐色	雲母・赤色粒・砂粒	口クロ調整。内外面に保存者。
76P1	中陶	白磁碗	-	-	-	良	内外白色	ち密	口クロ調整。中国製造者。白磁碗類。高4cm。外径碗口・A型(古岡編年 2011)15番手。

遺物は、一括については遺構覆土からの出土で、標高m表示は、上位の整地層中で下位に遺構が検出された遺物である。両者の時期差は見られない。56P2.65P1は大室1段階で、15世紀末～16世紀初頭である。カワラケは口縁部形態にバラエティーが見られる。76P1は白磁碗で、整地層中下層の出土である。15世紀前半に比定される。このことから、時期幅は見られるものの、15世紀前半～16世紀初頭の遺構年代が想定される。

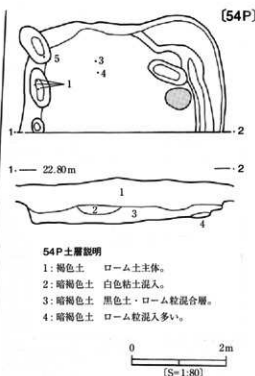
#### 第6節 南側遺構群と出土遺物(第27～29図・図版6.7)

L字状段差西側と南側に連なるビット群及び堅穴遺構となる54Pからなる。前述したように、本遺構群は掘立柱建物掘り方に想定される深いビット群や楕円形プラン内に複数の掘方が見られたことから、建物エリアと考えた。個々の遺構について説明を加える。第27図に示したように、底付掘立柱建物跡1棟、南側に2間の別掘立柱建物跡が調査区外に伸びている。底付掘立柱建物跡は主軸がN-35°Wで3間(6.6m)×1間(4.0m)に庇がつく。南掘立柱建物跡は、主軸は同じで2間(4.2m)である。

検出されたビットは、柱状の断面形態を示すものが多く、深さも35cm～70cmと深い。覆土は暗褐色土で黒色土を含む層である。調査区では、標高の高い位置にあり、屋敷地としての機能性が高いと想定される。54Pは主軸がN-54°Eで、4.5m×2.5m以上×深さ0.44mで調査区外に伸びる。西側にビット3基が壁際に並列する。南東壁は二段で、炬とビット1基が下段に並列する。西側ビットは、35cm～54cmの深さでビット内から土器が出土している。南東壁ビットは皿状で20cmと浅い。炬は60×40cmで



第27図 02調査区南側遺構群配置図



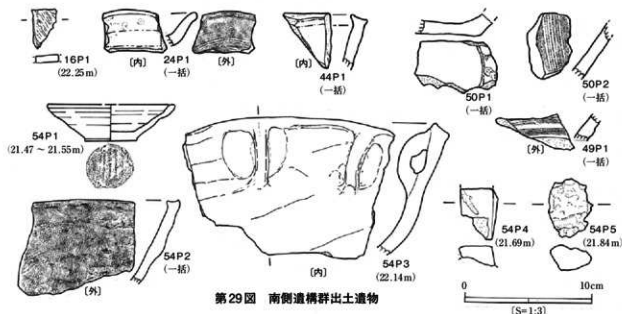
54P土層説明

- 1: 褐色土 ローム土主体。
- 2: 暗褐色土 白色粘土混入。
- 3: 暗褐色土 黒色土・ローム粒混入層。
- 4: 暗褐色土 ローム粒混入多い。

第28図 54P遺構実測図

南側遺構群遺構計測表 ※黒は黒色土、ローム粒はロ粒、ロームブロックはロブとする

遺構番号	区別	平面形態	土層	面積	長軸×短軸×深さ(m)	確認面	土層	備考
16P	位置区	方形少	N42°-E	柱状	0.95 × 0.3以上 × 0.43	遺構上面	褐色土(ロ粒、ロブ含)	
17P	位置区	楕円形	N88°-E	柱状	1.3 × 0.75 × 0.36 ~ 0.68	遺構上面	暗褐色土(ロブ含)	
18P	位置区	楕円形	N14°-E	柱状	1.4 × 0.85 × 0.61	遺構上面	暗褐色土(ロブ含)	
19P	位置区	円形	-	柱状	0.5 × 0.45 × 0.32	遺構上面	暗褐色土(ロブ含)	
20P	位置区	楕円形	N84°-W	柱状	0.75 × 0.55 × 0.7	遺構上面	暗褐色土(黒、ロ粒混入層)	
21P	位置区	円形	-	柱状	0.55 × 0.45 × 0.53	遺構上面	暗褐色土(黒、ロ粒混入層)	
22P	位置区	楕円形	N30°-W	箱形	1.2 × 0.9 × 0.45	遺構上面	暗褐色土(黒、ロ粒混入層)	V層中底面
23P	位置区	不整形	S42°-E	柱状	1.0 × 0.7 × 0.46	遺構上面	暗褐色土(黒、ロ粒混入層)	V層中底面
24P	位置区	不整形	N56°-E	柱状	1.0 × 1.7 × 0.41 ~ 0.50	遺構上面	暗褐色土(黒、ロ粒混入層)	カワラケ土層部以上
25P	位置区	楕円形	N70°-E	柱状	0.8 × 0.45 × 0.31	遺構上面	暗褐色土(黒、ロ粒、ロブ混入層)	
26P	位置区	楕円形	N84°-E	箱形	0.7 × 0.55 × 0.29	遺構上面	暗褐色土(黒、ロ粒、ロブ混入層)	
27P	位置区	円形	-	柱状	0.6 × 0.6 × 0.47	遺構上面	暗褐色土(ロ粒、栗混入層)	
28P	位置区	楕円形	N64°-E	柱状	1.05 × 0.6 × 0.44 ~ 0.47	遺構上面	暗褐色土(ロ粒、栗混入層)	
29P	位置区	楕円形	N44°-E	柱状	0.7 × 0.6 × 0.25 ~ 0.45	遺構上面	暗褐色土(ロ粒、栗混入層)	
30P	位置区	円形	-	柱状	0.6以上 × 0.6 × 0.36	遺構上面	暗褐色土(ロ粒、栗混入層)	
31P	位置区	楕円形	N60°-E	箱形	0.8 × 0.5 × 0.28	遺構上面	暗褐色土(ロ粒、栗混入層)	
32P	位置区	楕円形	N70°-E	箱形	1.0 × 0.6 × 0.38	遺構上面	暗褐色土(ロブ、粘土上混入層)	V層中底面
33P	位置区	楕円形	N22°-W	箱形	1.6 × 0.6 × 0.51	遺構上面	暗褐色土(ロブ、粘土上混入層)	V層中底面
34P	位置区	円形	-	柱状	0.6 × 0.55 × 0.62	遺構上面	暗褐色土(ロブ、粘土上混入層)	
35P	位置区	円形	-	柱状	0.8 × 0.7 × 0.45	遺構上面	暗褐色土(ロブ、粘土上混入層)	V層中底面
36P	位置区	楕円形	N52°-E	二段	1.15 × 0.7 × 0.47 ~ 0.63	遺構上面	暗褐色土(ロ粒、栗混入層)	V層中底面
37P	位置区	N40°-W	箱形	0.7 × 0.5 × 0.36	遺構上面	暗褐色土(黒、ロ粒含)	V層中底面	
38P	位置区	楕円形	N20°-W	柱状	1.2 × 0.6 × 0.45	遺構上面	暗褐色土(ロ粒含)	
39P	位置区	円形	-	柱状	0.7 × 0.7 × 0.39	遺構上面	褐色土(栗色土)	
40P	位置区	円形	-	面状	0.4 × 0.3 × 0.15	遺構上面	暗褐色土(栗、ロ粒混入層)	
41P	位置区	円形	-	面状	0.5 × 0.35 × 0.15	遺構上面	暗褐色土(栗、ロ粒混入層)	
42P	位置区	三角形	N78°-E	柱状	0.8 × 0.7 × 0.35	遺構上面	暗褐色土(ロ粒、栗混入層)	
43P	位置区	楕円形	N52°-W	箱形	1.5 × 0.8 × 0.43	遺構上面	暗褐色土(ロ粒、栗混入層)	
44P	位置区	L字形	N4°-W	柱状	1.6 × 1.3 × 0.45	遺構上面	暗褐色土(粘土上)	内瓦土層上
45P	位置区	円形	-	柱状	0.55 × 0.45 × 0.4	遺構上面	暗褐色土(ローム粘土含)	
46P	位置区	円形	-	面状	0.5 × 0.4 × 0.21	遺構上面	暗褐色土(ローム粘土含)	
47P	位置区	円形	-	面状	0.6 × 0.45 × 0.25	遺構上面	暗褐色土	
48P	位置区	楕円形	N40°-E	柱状	1.25 × 0.75 × 0.43	遺構上面	暗褐色土(黒アブツク含)	
49P	位置区	不整形	N42°-W	柱状	1.1 × 0.95 × 0.55	遺構上面	暗褐色土(黒アブツク含)	黒アブツク片
50P	位置区	楕円形	N56°-E	箱形	0.8 × 0.45 × 0.32	遺構上面	暗褐色土(黒アブツク含)	内瓦土層上、土層破片
51P	位置区	不整形	N40°-E	面状	1.0 × 0.7 × 0.25	遺構上面	ローム土	
52P	位置区	円形	-	柱状	0.5 × 0.4 × 0.29	遺構上面	暗褐色土(粘土上アブツク含)	
53P	位置区	方形少	-	柱状	0.45 × 0.4以上 × 0.49	遺構上面	暗褐色土(粘土上アブツク含)	土層に炭化物層(54Pに付随する)
54P	位置区	方形少	N54°-E	二段	4.5 × 2.5以上 × 0.44	遺構上面	暗褐色土(栗、ロ粒混入層)	カワラケ土(15米~6米)、内瓦土層上



第29図 南側遺構群出土遺物

南側遺構群遺物観察表

品番	器種	器形	部位	計測値(cm)			焼成	色調	胎土	調査・文様等
				器高	口径	底径				
16P1	右製品	磁石	破片	縦長31	横長19	厚さ0.5	焼?46g		材質不明	上面のみ使用。器口の細かい条線が入る。仕上げ用。
24P1	土器	カワラケ	口縁部片	-	-	-	良	内外暗褐色 内赤褐色	雲母、長石、小石粒、砂粒	ロクロ調整。内外ナデ。内外面に隈付着。16後半。
44P1	土器	内耳土鍋	口縁部片	-	-	-	良	良	雲母、長石、砂粒	ロクロ調整。内外ナデ。源法寺焼成。16後半。
49P1	鋼片	鍔鉢	鋼部片	-	-	-	良	内暗褐色 外黄褐色(遺物)	長石、石英	ロクロ調整。
50P1	土器	内耳土鍋	底部片	-	-	-	良	内暗褐色色 外赤褐色	雲母、長石	源法寺焼成。内外ナデ。外面立ち上りに隈付着。
50P2	土器	鍔鉢	鋼部片	-	-	-	良	内外暗褐色 内赤褐色	雲母、長石	源法寺焼成。内外ナデ。横目7本。
54P1	土器	カワラケ	口縁部1/4 底部全周	29	30.1	4.0	良	内外赤褐色	雲母、長石	ロクロ調整。口ナデ付有。底面石目刻筋あり。厚目7本。横目5本。15後半～16前半。灯明調入1層。
54P2	土器	内耳土鍋	口縁一隅部片	-	-	-	良	内暗褐色 内赤褐色	雲母、石英、砂粒	源法寺焼成。ロクロ調整。内外ナデ。内口ナデ。15世紀。
54P3	土器	内耳土鍋	口縁一隅部 内径2.0cm	-	-	-	良	内暗褐色 内赤褐色	長石、石英	瓦質。内外ナデ。外面隈付着。15後半。
54P4	右製品	磁石	破片	縦長40	幅29	厚さ1.5	焼?口鉢		流紋岩	4面で使用。仕上げ用。火熱受け用。
54P5	金属製品	鉄滓		全長47	幅35	厚さ1.9	焼?口鉢			

やや焼けた状態であった。鉄滓が本遺構から出土しており、小鍛冶遺構を想定した。東壁に接した53Pでは、覆土上層に炭化物層が充填されており、本遺構との関連性が想定される。

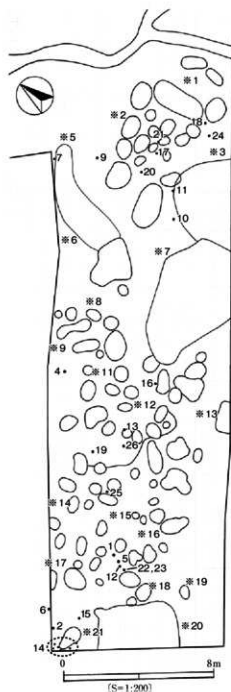
遺物は、一括については遺構覆土からの出土で、標高m表示の内、16P1は上位の整地層中の出土で、54Pは全て遺構覆土中の出土である。54P1は船橋市東中山台遺跡群(36)中のカワラケA-1類大型で16世紀前半である。同様に24P1のカワラケもA-1類小型で同時代に比定される。44P1は、胎土に雲母を多含している内耳土鍋の源法寺焼系で16世紀後半である。54P2.3の内耳土鍋は両者とも15世紀代の所産である。また前述したが、54Pからは瀬戸鍔鉢口縁部片が出土し、83Pと接合した。同一個体が01井戸覆土中からも出土している。時期は古瀬戸後期IV新で15世紀末に比定される。このことから、時期幅は見られるものの、15世紀後半～16世紀後半の遺構年代が想定される。

#### 第7節 整地面出土遺物(第30～32図・図版9)

ここでは、遺構確認面に至る整地層中の遺物について図示した。全ての遺物は、遺構外出土である。整地面No遺物26点と整地面一括遺物6点を図示した。整地面No遺物の内、北側遺構群周辺では、7.9～11.17.18.20.2124が出土。中央遺構群周辺では4.13.16.19.26が、南側遺構群では1.2.5.6.12.14.15.22.23.25が出土した。

北側では7.9の内耳土鍋は確認面より20cm高い。10.11の土器鍔鉢は30～50cm高い。17.18の常滑片口鉢はほぼ確認面。20.21.24は板破片。鉄滓では確認面である。常滑片口鉢は伝世したもので、





第30図 整地面No.遺物分布図

遺構確認面の高さ(単位:m)

※1	21.222	※11	21.527
※2	21.133	※12	21.724
※3	21.434	※13	21.83
※4	21.448	※14	21.99
※5	21.123	※15	21.941
※6	21.253	※16	21.902
※7	21.285	※17	22.017
※8	21.472	※18	21.99
※9	21.558	※19	22.082
※10	21.723	※20	22.084
		※21	22.078

生活痕跡と想定されよう。

中央では4のカワラケが20cm高い。3瀬戸端反皿は10cm高い。16瀬戸茶入れはほぼ確認面である。瀬戸美濃産陶器の端反皿の年代観は16世紀前半である。

南側では1.2のカワラケが0～19cm高い。5.6の内耳土鍋は7～15cm高く、12.14の瀬戸端反皿、緑釉小皿は6～8cm高い。15の瀬戸丸皿は11cm高い。その他の遺物では、22.23の銭貨1/4片が2点同位置から出土している。高さはほぼ確認面である。25の火打金も確認面からの出土である。瀬戸美濃産陶器からの年代観は16世紀初頭～16世紀前半となる。

一括遺物では、1のカワラケは大体型となる。その他の遺物として、磨り石・火打石・鍬(ハバキ)が南側遺構群エリアから出土した。

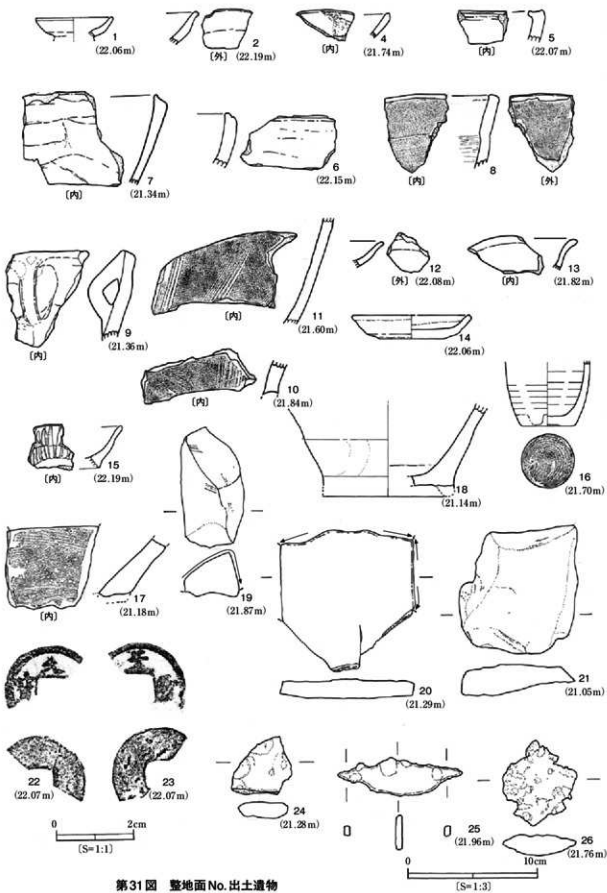
結果として、遺構群を埋めた整地層内の遺物と遺構出土の遺物には明確な時期差が認められないことから、屋敷の造営から廃絶は短期間であったと想定されよう。

#### 第8節 排土・確認調査時出土遺物(第33.34図 図版10)

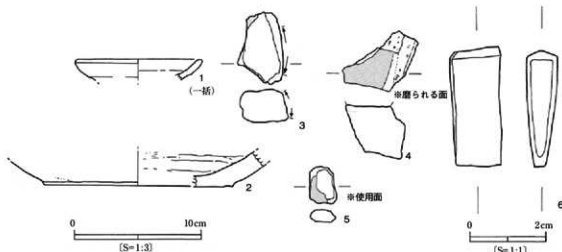
排土遺物12点、確認調査時遺物を15点図示した。

排土遺物は、遺構内・整地層内の構成を示すもので、図示した遺物は、時期を含めてこれまでと同様の内容である。特殊な遺物では、断定はできないものの火鉢が出土した。屋敷内での上層階級が使用したと想定される。

確認調査時遺物は、掘込型屋敷内の未調査域についての土地利用の想定を可能とするものである。確認調査知見では、地下式坑・掘立柱建物跡が本調査範囲外で検出された(4㉔:確認調査遺構確認状況図参照)。今回の本調査範囲内から出土した遺物は、2.8.9.11.12で時期・器種等も同様な状況である。この内、12は生業に関わる遺物として注目されよう。本調査範囲内の内、掘込型屋敷外の出土品として7は江戸時代末期の陶器片で4T出土である。掘込型屋敷内では、1は17T出土、3.4.6.は15T出土、14は13T出土である。4の土製釜は千葉県東部に類例が求められる遺物で、15世紀後半～16世紀前半に比定される。6の瀬戸挿鉢も16世紀初頭の所産である。今回調査区外の掘込型屋敷内においても、同時期の遺物が出土していることから、屋敷地の2,000㎡程度をまとまりとして考慮して良いだろう。



第31圖 整地面No.出土遺物



第32図 整地面一括出土遺物

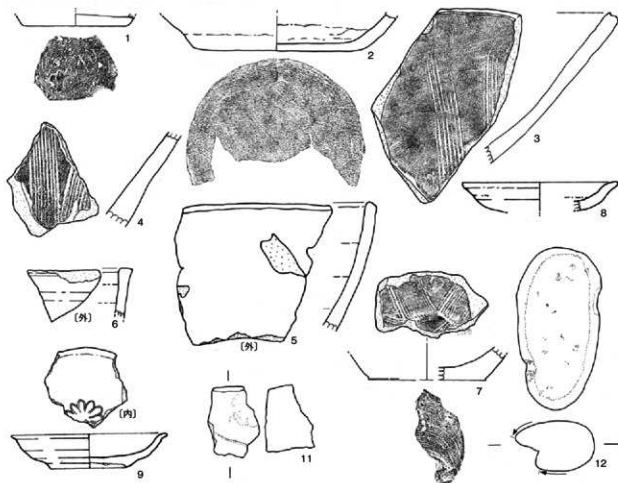
整地面 No. 出土遺物観察表

※3は欠番

層様	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等	
			器高	口径	底径					
1	土器	カワラケ	口縁部内	遺存高 1.7	6.0	-	長	内外淡赤褐色	雲母、長石	口テロ調整。口テロナナ。
2	土器	カワラケ	口縁部内	-	-	-	長	内外淡褐色	雲母、砂粒	口テロ調整。口テロナナ。
4	土器	カワラケ	口縁部内	-	-	-	長	内外暗褐色	雲母、長石、赤鉄	口テロ調整。口テロナナ。内面黒付着。
5	土器	内耳土鍋	口縁部内	-	-	-	長	外赤褐色(黒付着)内淡褐色	緑雲母多含	内外口テロナナ。湯込令焼。口唇上部縦い沈線。
6	土器	内耳土鍋	口縁部内	-	-	-	長	外赤褐色(黒付着)内淡褐色	雲母、長石混入	口テロ調整。外ナナ。内口テロナナ。
7	土器	内耳土鍋	口縁部内	-	-	-	長	外赤褐色(黒付着)内赤褐色	雲母、砂粒	外ナナナ。内面ヘナナナ。
8	土器	内耳土鍋	口縁部内	-	-	-	長	内外暗青灰色	雲母、長石各少含	湯込令焼成。口唇部縦に縦い沈線。口テロ調整。内面に縦い沈線。
9	土器	内耳土鍋	口縁部内(耳あり)	-	-	-	長	内外淡灰褐色	雲母、長石	湯込令焼成。内外ナナ調整。外面一部黒付着。
10	土器	土器楕鉢	胴部片	-	-	-	長	内外淡赤灰褐色	長石、雲母	やや湯込令焼成。内外ナナ調整。口縁は2-3本。
11	土器	土器楕鉢	胴部片	-	-	-	長	赤褐色(黒付着)内淡赤褐色	雲母、内外石	酸化令焼成。内外ナナ調整。口縁は5本。
12	瀬戸	磁反豆	口縁部内	-	-	-	長	内外淡緑灰色	中々梗	湯。口テロ調整。器内内外赤土。大型調整。黒赤調整。
13	瀬戸	磁反豆	口縁部内	-	-	-	長	内外淡緑灰色	中々梗	湯。口テロ調整。器内内外赤土。大型調整。黒赤調整。
14	瀬戸	磁反豆	口縁部内	1.8	9.2	5.0	長	内外淡赤褐色(口縁内外淡赤緑灰色)	長石、やや梗い	口テロ調整。内外口テロナナ。底部石粒(糸切り)無し。古瀬戸(後期)産(1400-1480年)に近。
15	瀬戸	丸瓦	口縁-体部	-	-	-	長	内外淡赤緑灰色	ち密	灰焼。口テロ調整。内面体部下段にツツ。面取り高台。大器2段。16高さ。
16	瀬戸	茶入か	底部全周。胴部片	-	-	-	長	内外赤褐色	長石、やや梗い	灰焼。内外口テロ調整。底段(口縁)糸切り無し。外周体部下段まで灰焼。内面全周灰焼。打ち欠き。お歯黒塗として再利用か。内面に鉄錆か。
17	常滑	片口鉢	胴下半部	-	-	-	長	内外暗褐色	長石多含	口テロ粘土着色上テロ調整。内面使用時で器面滑らか。上段で磨られる。
18	常滑	片口鉢	底部一胴部下半部	遺存高	-	復原底径	長	内外灰白色	長石多含	口テロ調整。外面下段へナナナ。内面使用時で器面滑らか。底付下段(文様。口口径1等。6高さ。13等。
19	石製品	磁石	磁片	全長 9.2	幅 4.9	厚さ 3.5	長	2.36g	淡緑色	5面において使用面あり。
20	石製品	磁石	磁片	全長 11.0	幅 30.3	厚さ 1.5	長	2.57g	緑色片岩	灰焼(黒付着)。3面において磨られる。表面面使用面なし。左側面は切取により平滑。
21	石製品	磁石	磁片	全長 9.7	幅 9.2	厚さ 2.3	長	2.26g	緑雲母片岩か	灰焼(黒付着)。
22	金銅製品	鏡背	1/2	外径 2.2	内径	厚さ 0.12	長	2.11g	鉄面 完〇ニツ	
23	金銅製品	鏡背	1/2	外径 2.6	内径 0.75	厚さ 0.15	長	2.03g	鉄面 完〇ニツ	
24	金銅製品	鏡背	磁片	幅長 4.3	幅長 4.6	厚さ 1.2	長	2.25g	鉄面 完〇ニツ	
25	金銅製品	大打金	完全形	全長 9.6	幅 2.7	厚さ 0.5	長	3.91g	鉄面 完〇ニツ	
26	金銅製品	鏡背	磁片	幅長 6.5	幅長 5.7	厚さ 1.6	長	2.54g	鉄面 完〇ニツ	

整地面一括遺物観察表

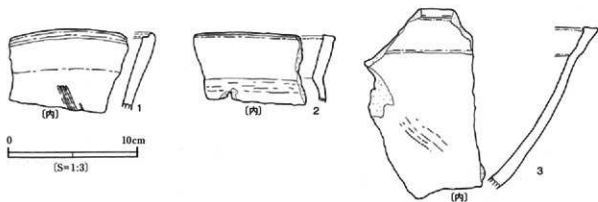
層様	器形	部位	計測値 (cm)			焼成	色調	胎土	調整・文様等	
			器高	口径	底径					
1	土器	カワラケ	口縁部内	遺存高 2.3	30.0	-	長	内外淡赤褐色	雲母、長石、砂粒	口テロ調整。器内内外石あり。
2	土器	内耳土鍋	胴部片	遺存高 2.8	-	14.8	長	外赤褐色(黒付着)内赤褐色	長石多含、雲母、石炭	外周体部下段2次焼成による割傷。器底付着。
3	石製品	磁石か	磁片	幅長 5.7	幅 3.4	厚さ 2.5	長	2.75g	緑雲母片岩	灰焼(黒付着)。右側面に磨られた面跡が見られる。
4	石製品	磁石	磁片	幅長 4.7	幅 4.8	厚さ 4.0	長	2.57g	不明(炭焼)	上面に磨られた面あり。
5	石製品	大打金	磁片	幅長 2.9	幅 2.0	厚さ 0.9	長	2.96g	石炭	左側に黒色化した打面が見られる。
6	金銅製品	釧(ハナキ)	完全形	全長 3.1	幅 1.4	厚さ 0.7	長	2.83g	青銅製。厚打用か。	



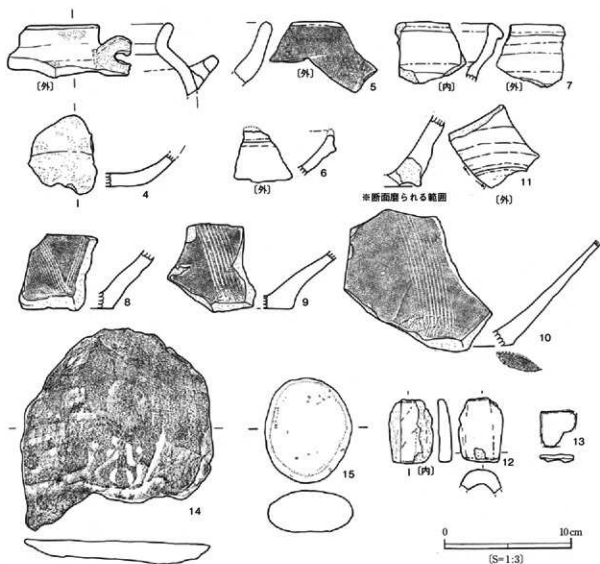
排土遺物観察表

※10は欠番

図録	器種	器形	部位	計測値(cm)		焼成	色調	胎土	調整・文様等
				器高	口径				
1	瓶・壺	杯	底部1/3	-	8.0	良	内外灰白色	雲母多含黒石砂粒	ロク口調整。
2	土器	内耳土鍋	底部1/2	遺存高27	13.4	良	内外淡青灰色	雲母・長石	透光光焼成。内外ナラ調整。
3	土器	土器鉢鉢	口縁部1/8	-	-	良	外灰褐色	雲母・長石・砂粒	透光光焼成。内外ロクロナラ。釦目8本。
4	土器	土器鉢鉢	胴部下半	-	-	良	内外暗褐色	雲母・長石・砂粒	内外ナラ調整。釦目9本。
5	土器	内耳土鍋	口縁～胴部1/8	-	-	良	外暗茶褐色・内灰褐色	雲母・長石・砂粒	透光光焼成。内外ロクロナラ調整。片麻片着。
6	土器	大鉢小	口縁部片	-	-	良	内外青灰色	ち密	瓦質。透光光焼成。ロク口調整。
7	瀬戸	鉢鉢	底部1/4	遺存高27	9.0	良	内外暗茶褐色(緑釉)	ち密	ロク口調整。底部右回転赤切り難し。釦目13本。大調整。50号記。
8	瀬戸	鉢鉢	口縁部片	遺存高22	12.0	良	外灰褐色・内灰黄緑白色	やや粗い	外面口縁部下。内面底部下部灰釉。大器1。15本～16本。
9	瀬戸	福足皿	口縁～底部1/4	25	12.0	6.0	内外灰黄緑白色(灰釉)	ち密	ロクロナラ。内外面無釉。高台外面中央に重ね織子模跡。内面見込み面中央に花輪模跡。大器1。16柄。
11	石製品	硯石		縦長54	横長39	厚さ3.6	重さ86.3g	砂岩系	二面使用。
12	石製品	磨石		縦長125	横長6.6	厚さ3.9	重さ353.3g	安山岩	全面において、磨られる。縦行磨跡見られず。



第33図 排土・確認調査時出土遺物(1)



確認調査時遺物観察表

品種	器形	部位	計測値(cm)		構成	色調	胎土	調整・文様等			
			器高	口径							
1	土器	土器縁鉢	口縁部片	-	-	良	内外淡褐色	長石、雲母、小石粒	薄化片構成。内外ナテ。口縁部内側沈積。厚目5本以上、17T		
2	土器	内耳土鍋	口縁部片	-	-	良	内外灰褐色	雲母、長石、砂粒	くすへ構成。内外ナテ。口縁部内側突起状。内面卵形な窪。窪下に焼成後の穿孔あり。厚目、21T		
3	土器	内耳土鍋	口縁部片	-	-	良	内外灰褐色	砂粒、長石、砂粒	薄化片構成。内外ナテ。口縁部内側突起状。内面卵形な窪。窪下に焼成後の穿孔あり。厚目、21T		
4	土器	土製釜	口縁部片	-	-	良	内外灰褐色	砂粒、石莖、赤色粒	内外口テナテ。肥土部手丸形卵形突起。底面やや平凹状。外面に炭付。15葉手-16葉手。底面部に類似あり、13T		
5	土器	土製火鉢	口縁部片	-	-	良	内外灰褐色	雲母、長石混入	内外口テナテ。外縁目立。やや丸形突起状。表層		
6	瀬戸	磁鉢	口縁部片	-	-	良	内外淡茶褐色	長石、石英	縁輪。口テロ調整。大溝1、16初、15T		
7	瀬戸	磁鉢	口縁部片	-	-	良	内外赤褐色	石英	口テロ調整。口縁部下方で屈曲する。19葉完全。4T		
8	瀬戸	磁鉢	底部・腹下片	-	-	良	内外灰褐色	やや粗い	縁輪。口テロ調整。口テロ目やや明瞭。腹目12本、19T		
9	瀬戸	磁鉢	底部・腹下片	-	-	良	内外赤褐色	石英、石英	縁輪。口テロ調整。口テロ目やや明瞭。底部回転軸切り離し。腹目9本、22T		
10	瀬戸	磁鉢	底部・腹下片	-	-	良	内外灰褐色	石英	縁輪。口テロ調整。口テロ目明瞭。腹目11本。表層		
11	密着	片口鉢	底部・腹下片	-	-	良	内外灰褐色	長石、石英、小石粒	口テロ調整。内面使用による磨り痕跡。腹目口に部分的に磨り痕跡られる。片口鉢1種。13葉。21T		
12	土製品	陶土鉢	1/2	腹長5.0	腹厚3.4	厚さ1.1	赤さ 24.5g	内外褐色。内 淡褐色	雲母、長石、砂粒	一部焼成片構成。27T	
13	鉄製品	筒小札	1/2	27四方	-	厚さ0.25	赤さ 0.3g	-	-	6T	
14	鉄製品	板釘	上部	遺存長15.7	幅15.1	厚さ1.7	赤さ 0.62g	-	-	緑色片岩	棒子キリク。13T
15	石製品	磨石	定形	腹長8.2	幅6.8	厚さ3.2	赤さ 209.6g	-	-	安山岩	表面側面磨られる。表層。

第34図 確認調査時出土遺物(2)

### 第3章 まとめ

#### 本跡出土の中世遺物と調査地点の性格について

道上 文

米本城跡の本体はⅠ郭～Ⅳ郭からなる(村田1978、遠山他2008)。今回の調査区であるc地点及び過去に調査されたb地点は、郭の外の北側に位置し、郭外と考えられてきた。そしてその性格は城域の内宿(家臣団の居住区)の一部とされてきた。米本城跡の発掘調査の原因となった開発行為において、b地点は字内宿南の加茂文左衛門家の敷地に位置する。c地点はⅣ郭北側にもともとあった窪地状の方形の区画にそのまま相当し、郭外の一部ではあるものの、その性格については明言されてこなかった。今回の発掘調査により、ここは表土から約1.1～2.1mまで掘り下げられたいわゆる掘込型屋敷であることが判明した。

一方、b地点の発掘調査では、加茂文左衛門家の屋敷の周りを囲む低い土塁とその外側に堀状の溝、内側は台地整形区画や土坑などが検出された。堀状の溝や台地整形区画・土坑などは中世の所産、低い土塁は中世の城の土塁を削平して近世に改変したものと考えられる。

このような状況下、c地点の掘込型屋敷は出土遺物から見て、15世紀後半～16世紀前半を主体とするもので、米本城の初源となった屋敷と想定した。一方、b地点は出土遺物からみて、16世紀後葉の米本城に付属する内宿の一部であると考えられる。

本項では、このことを出土した遺物(土器・陶磁器)の分析により証明するとともに、米本城の成立過程を考察することを目的とする。

#### c地点出土の中世遺物について

c地点では表1のとおり、中世の土器・陶磁器は260点出土した。これまでの米本城跡の調査履歴のなかでは最も遺物の量が多い。保存区を除いた調査面積は865㎡であり、面積に対する遺物の出土量は30点/100㎡である。

その内訳は表8・グラフ3に示したとおり、内耳土鍋・土器播鉢が多数を占める。次いで瀬戸美濃窯製品が多く、そのなかでも播鉢・小皿類が多い。カワラケは33点で全体に占める比率は13%と低い。常滑窯製品も19点で7%と少ないことが特徴である。

貿易陶磁は2点で少ないが、青磁折縁盤1点・白磁外反碗1点(吉岡他2001)が出土している。青磁折縁盤は櫛目文を有し、吉岡編年ではⅣ-2類2B類とされ、Ⅳ期新(1400～1460年)にほぼ相当すると考えられる。青磁盤は県内では本佐倉城跡や墨古沢遺跡などで出土が認められるが、類例が少ない資料である。武士の威信財の一種であり、特筆すべき資料である。白磁外反碗は吉岡編年D・A類(森田1982・D群相当)に相当し、15世紀前半頃に比定される。本類の白磁外反碗も県内では数少ない出土資料と考えられる。参考資料として貿易陶磁の豊富な沖縄県に類例を求めた。2点とも吉岡編年では15世紀前半頃に比定されるが、なお検討を要する資料とされている。いずれにせよ県内では稀少な貿易陶磁が出土しているといえよう。

瀬戸・美濃窯製品の時期別変化を見ると(表6・グラフ1)、時期が確定できた資料は古瀬戸後期様式Ⅳ期新段階(以下、後Ⅳ新)～大窯2段階に集中する。口縁部が遺存しない播鉢の体部・底部片などは後Ⅳ新～大窯段階としたが、ほぼ後Ⅳ新～大窯1段階に取まるものと推定される。資料全体を見て後Ⅳ新までのものが多く、大窯段階は少ない印象である。瀬戸・美濃窯製品は15世紀末葉～16世紀前半代が主体である。(なお、後Ⅳ新播鉢は接合しない破片が4点・4遺構から出土し、これは同一個体として1点と計上した)。

在地系土器は内耳土鍋と土器播鉢が中世遺物全体の63%を占める。一方、カワラケは13%と少なく、

日常生活感が強いことがわかる。内耳土鍋は深型で瓦質のものが主体であり、瀬戸・美濃後Ⅳ新の播鉢に共伴するものが主である。瀬戸美濃窯製品との共伴の状況及び県内の内耳土鍋編年(築瀬2005)から考えて、内耳土鍋は15世紀後半から16世紀前半までの時期のものである。今回は16世紀後半に比定される焙烙形に近い浅型の内耳土鍋は出土していない。

土器播鉢はこの深型の内耳土鍋に共伴し、口唇部に1条の沈線が巡るタイプが主体である。土器播鉢は22点、瀬戸・美濃窯の播鉢は18点で、土器播鉢の方が若干上回るが、両者はほぼ拮抗している。同じ機能である常滑窯の片口鉢は5点であるが、13世紀代に比定される高台付片口鉢が多く、上記の播鉢とは時代が異なる。

ほかに土製釜が1点出土している。これは東海系羽釜が多い東京湾岸には少なく、千葉県東部地域にやや多く分布する資料である。八千代市内では下宿東遺跡でも1点出土している。

そのほかに瓦質の土器壺1点、土製火鉢2点、土製香炉1点が出土している。上記の貿易陶磁に加えて火鉢・香炉の所有は階層性の高さを示す遺物である。

上記の遺物出土状況から、c地点の掘込型屋敷は15世紀後半から16世紀前半にかけて機能し、16世紀後半には廃絶していたと考えられる。

## 他の遺跡との比較

近年の中世遺跡の研究手法の一つとして、出土した中世土器・陶磁器の破片数を統計処理して、その遺跡の性格を位置づける手法がある。千葉県内の先行研究である築瀬2004、井上2005、柴田2006等の成果を引用・参照しながら、米本城跡についても統計データを他の遺跡と比較することにより、その性格を検討したい。

ひとくち中世遺跡と言っても、さまざまな性格(階層性等)があるため、それらを網羅する特徴的な県内の遺跡を抽出した。合せて米本城跡から比較的近い距離にある北総地域の遺跡を選択した。なお紙幅の関係で遺跡の所在や性格等及び統計データは表8にまとめた。

抽出した遺跡の性格を簡単に述べると、Aグループは城郭跡で、本佐倉城跡は戦国期の大名である千葉氏の本城、小林城跡は在地領主の城郭の主郭部、北ノ作遺跡は在地領主の小城郭、篠本城跡は土豪層の屋敷が15世紀には一部が城郭化した屋敷群の集合体である。Bグループは地域の土豪層の屋敷跡で、墨古沢遺跡は掘込型屋敷を含む土豪層の屋敷群、東中山台遺跡群(36)は土豪層の掘込型屋敷、中馬場遺跡は水戸街道沿いの集落跡(屋敷・町場)である。

遺跡により調査面積もさまざまであり、また出土点数の多寡もあるが、ここでは遺物の組成に注目する。グラフ3に示したとおり、Aグループはカワラケの割合が卓越する。そのなかで、篠本城跡のみカワラケの割合が低く、土器類においては内耳土鍋の割合が高い。また北ノ作遺跡はカワラケの割合が高いものの、内耳土鍋と拮抗している。Bグループは内耳土鍋の割合が高い傾向が明らかで、土器播鉢と合せると40%を超えている。カワラケの用途は儀式・儀礼用が主であり、階層性の高さの指標とされている。一方、内耳土鍋・土器播鉢は日常生活感の強さを示し、土豪層以下の居住地に多い傾向がある。

これを米本城跡c地点と比較すると、本地点は内耳土鍋の割合が高く、カワラケの比率が低く、Bグループと組成が類似している。すなわち本地点は米本城という城郭の中にあつて、土豪層の掘込型屋敷や集落跡の屋敷群と類似した遺物組成といえる。この遺物組成は、本地点が掘込型屋敷の構造を有することと、整合性のある現象である。発掘調査前は城郭の郭外の一部と考えられていたが、本地点は遺物の時期から考えて15世紀後半から16世紀前半を主体とする掘込型屋敷であり、城郭に先行する屋敷と考えられるのである。

## b地点について

では令和元年度に発掘調査された北側エリアのb地点はどうであろうか。比較のために遺物の集計を再度行った(表3)。b地点は調査面積が500㎡、中世の出土遺物は106点で、21点/100㎡と少ない。一方、近世の遺物は90点ある。c地点(865㎡)は、中世遺物は260点(30点/100㎡)と多いことがわかるが、近世の遺物は7点であり、中世に比べると非常に少なく、b地点とは対照的である。b地点の瀬戸美濃窯製品(表7・グラフ2)は16点と少量であるが、その時期は古瀬戸後期から登窯8小期にいたる。また内耳土鍋は浅型の焙烙形に近いものが主体である。貿易陶磁は2点だが、16世紀末の漳州窯系染付碗及び景德鎮窯系染付碗が出土しており、日常生活感が強いなかにも稀少な貿易陶磁を所有している階層であることを示唆する。

以上、b地点は16世紀後葉を主体としてその後の近世も存続しているエリアであり、16世紀前半で廃絶したc地点とは対照的である。b地点が内宿の一部であることが遺物組成からも首肯される。

## まとめ

c地点は、遺構の状態から見て掘込型屋敷の形状を成し、その時期は15世紀後半～16世紀前半にかけて機能し、廃絶後は埋没して窪地状を呈していたと考えられる。掘込型屋敷は北総地域で検出される特徴的な屋敷の形態であり、台地の先端ではなく基部に位置し、単独で存在する場合は15世紀後半から機能し、16世紀初頭から前半には廃絶していることが知られ、所有者の階層は土豪層と考えられている(築瀬2001)。また、先にも見た墨古沢遺跡のように掘込型屋敷を含む屋敷群を形成する場合もある。c地点の出土遺物は貿易陶磁の威信財を有する側面もありながら、内耳土鍋などが多く日常生活感が強いことから、その所有者の階層は土豪層とみられる。ここまでは築瀬2001に示される掘込型屋敷とよく類似しているが、c地点の場合は単独の屋敷ではなく、米本城跡の一部に位置していることが異なる。

では米本城跡全体とc地点の関係はどのようにとらえられるであろうか。米本城跡は残念ながらI郭・II郭がほぼ削平されているが、I郭～IV郭及び内宿を含むエリアは村上氏が支配した時期である16世紀末の城郭の最終的な姿であろう(遠山他2008、外山2022)。このなかでIII郭は樹形虎口を有するものの、方形の土塁に囲まれていることから、当初は古い屋敷としてc地点の屋敷と共存していた可能性も考えられるが、未調査である。

現時点で考えられる米本城の構築順序は、まず地元の土豪層によって台地の基部に掘込型屋敷が15世紀後半に構築され、16世紀前半にはその使命を終え廃絶するが、その後、16世紀後半には台地の先端に向かって拡張する形で造成工事が行われ、本格的な城郭が構築されたと考えられる。城郭の規模から考えて支配者は土豪層よりも上位の領主層であると推測される。そして16世紀後葉には本地域へ進出した村上氏により(外山2022)、内宿を有する大型城郭へと発展したものと考えられる。

掘込型屋敷を築いた土豪層が誰なのか、不明であるが、北側に隣接する長福寺には板碑が多数保存されていて、掘込型屋敷の時期と一致する15世紀後葉～16世紀前葉の板碑が15基もある(村田1991)。この板碑群は戦国時代の幕明けの時期に供養された人々と土豪層との関係を想起させる。

この掘込型屋敷に居住した土豪層が領主の権力下に取り込まれ、内宿などの城下集落に居住域を移したという方向性を看取することもできよう。

本稿を記するにあたり、遠山成一氏、外山信司氏からご教示を頂いた。記して感謝いたします。



表1 米本城跡c地点  
遺物別分類表

用途	産地	種類	破片数
食膳具	在地製品	土器	33
	国産陶器	瀬戸・美濃	15
		青磁	1
	中国製	白磁	1
		小計	2
計		50	
調理具	在地製品	土器	21
	国産陶器	瀬戸・美濃	19
		常滑	5
	中国製	小計	24
		計	
貯蔵具	在地製品	土器	1
	国産陶器	瀬戸・美濃	3
		常滑	14
	計		18
煮炊具	在地製品	土器	144
その他	在地製品	土器	3
中世遺物合計			260
土師器・須恵器			29
近世			7
近現代			14
不明			土器 4

※接合後の破片数。接合しなくても明らか同一個体は1点とした。  
調査面積865㎡ 30点/100㎡

表2 米本城跡c地点  
その他の中世遺物分類表

	種別	破片数	
石製品	すり石	6	
	台石	3	
	砥石	5	
	火打石	1	
	板碑	3	
	石塔	2	
	不明	5	
	計	25	
	金属製品	鉄滓	4
		鉄貨	3
火打金		1	
釘		1	
はばき		1	
計		10	
土製品		スサ	2
貝		アカニシ	4
総計			41

表3 米本城跡b地点  
遺物別分類表

用途	産地	種類	破片数
食膳具	在地製品	土器	12
	国産陶器	瀬戸・美濃	2
		中国製	染付
計		16	
調理具	在地製品	土器	20
	国産陶器	瀬戸・美濃	5
		常滑	1
	小計		6
計		26	
貯蔵具	国産陶器	常滑	17
煮炊具	在地製品	土器	42
その他	在地製品	土器	5
中世遺物合計			106
土師器・須恵器			14
近世			90
近現代			2
不明			土器 9

※接合後の破片数。接合しなくても明らか同一個体は1点とした。  
調査面積500㎡ 21点/100㎡

表4 米本城跡c地点中世遺物の内訳

用途	産地	種類	破片数
食膳具	在地土器	カワラケ	33
	瀬戸美濃産	平碗	2
		緑釉小皿	4
		緑釉挟み皿	3
		端反皿	3
		丸皿	2
		青磁緑折皿(盤)	1
	中国産	白磁端反皿	1
調理具	在地土器	襦鉢	21
	瀬戸美濃産	即日付大皿	1
		襦鉢	18
	常滑産	片口鉢	5
貯蔵具	在地土器	瓦貫壺	1
	瀬戸美濃産	茶壺	1
		茶入	2
常滑産	壺	14	
煮炊具	在地土器	内耳土鍋	144
		土製釜	1
その他	在地土器	火鉢	2
		香炉	1
合計			260

表5 米本城跡b地点中世遺物の内訳

用途	産地	種類	破片数
食膳具	在地土器	カワラケ	12
	瀬戸美濃産	丸皿	2
		中国産	滑州窯系青花文染付碗
調理具	在地土器	襦鉢	20
		即日付大皿	1
	瀬戸美濃産	襦鉢	4
	常滑産	片口鉢	1
貯蔵具	常滑産	壺・壺	17
煮炊具	在地土器	内耳土鍋	42
		火鉢	3
	その他	香炉	0
	風炉	2	
合計			106

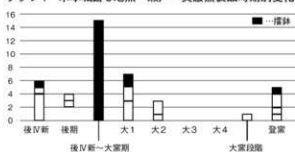
表6 米本城跡c地点 瀬戸・美濃窯製品時期別変化

	器種	古瀬戸後期		大室					登窯		古瀬戸計	後期古新 ～大室計	大室計	中世合計	近世計	
		後IV新	後期	後期古新～ 大室期	大1	大2	大3	大4	大室段階	登窯						登窯
中世	小皿類	緑釉小皿	4								4				4	
		緑釉伏見皿			3								3	3		
		陶反皿				2	1						3	3		
		丸皿					2						2	2		
	碗類	平碗		2							2				2	
	銅皿	銅目付大皿	1								1				1	
	搦鉢	搦鉢	1		15	2					1	15	2	18		
	壺・ 香印類	茶壺		1					1		1		1	2		
		茶入			1								1	1		
		器種不明	皿類		1						1			1		
近世		搦鉢								1					1	
		鉢鉢								1					1	
		茶碗								2					2	
		器種不明								1					1	
合計		6	4	15	8	3			1	5	10	15	12	37	5	

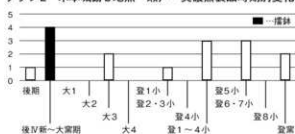
表7 米本城跡b地点 瀬戸・美濃窯製品時期別変化(登窯含む)

	器種	古瀬戸		大室				登窯								合計	中世計	近世計
		後期	後IV新～ 大室期	大1	大2	大3	大4	登1 小	登2・3 小	登4 小	登1～4 小	登5 小	登6・7 小	登8 小	登窯			
中世	小皿類					2											2	2
	搦鉢		4														4	4
	銅皿	銅目付大皿	1														1	1
近世	碗類	碗(器種不明)								1							1	1
		天目茶碗								1	1						2	2
	鉢類	小型鉢														1	1	1
		大平鉢													1	1	1	1
		鉢(黄釉)													1	1	1	1
	壺類・ 香印類	短頸壺									1						1	1
		筒形香印										1					1	1
	黄瀬戸香印														1	1	1	
合計		1	4			2			1		3		3		2	16	7	9

グラフ1 米本城跡c地点 瀬戸・美濃窯製品時期別変化



グラフ2 米本城跡b地点 瀬戸・美濃窯製品時期別変化



瀬戸美濃窯編年基準

古瀬戸後期様式

(藤澤 2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院)

- 後期様式IV期古段階 1440年代には成立～
- 後期様式V期新段階 1460年代成立～1476年

瀬戸・美濃窯大室編年

(藤澤良祐 2002 『瀬戸・美濃大室編年の再検討』

『研究紀要』第10輯 財団法人市理成文化財センター)

- 第1段階 1480年代～1520年代
- 第2段階 1530年代～1550年代末
- 第3段階 1560年代初頭から1580年代末  
(1570年代後半には第3段階後半成立)
- 第4段階 1590年代～1610年初頭  
(1590年代末末には第4段階後半成立)

瀬戸美濃窯登窯編年

(財団法人市理成文化財センター 2002 『江戸時代の瀬戸窯』)

- 第1段階
- 第1小期・第2小期 1610年～1650年
- 第3小期・第4小期 1650年～17世紀後葉
- 第2段階
- 第5小期 17世紀後葉～1700年
- 第6小期 1700年～18世紀前葉
- 第7小期 1750年前後
- 第3段階
- 第8小期 18世紀後葉
- 第9小期 1800年～1825年頃
- 第10小期 1825年頃～1850年
- 第11小期 1850年～近世終末

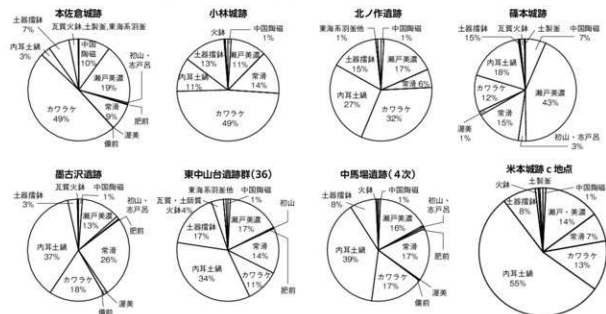
表8 他の遺跡と米本城跡c地点の遺物組成比較(中世・一部は17c前半含む)

遺跡名	本佐倉城跡	小林城跡	北ノ作遺跡	篠本城跡	墨古沢遺跡	東中山台遺跡群(36)	中馬場遺跡(4次)	米本城跡c地点
所在地	佐倉市・酒々井町 12,853m <sup>2</sup> (トレンチ+1~Ⅲ部とⅤ部の一部を本調査)	印西市 主郭部 3500m <sup>2</sup>	四街道市 4000m <sup>2</sup>	横芝光町 29,300m <sup>2</sup>	酒々井町 27,342/38,742m <sup>2</sup>	船橋市 2,505m <sup>2</sup>	柏市 38,287m <sup>2</sup>	八千代市 865m <sup>2</sup>
性格	千葉県の主城	在地領主の城郭の主郭部	在地領主の小城郭	幕府・城跡・土豪層の城郭跡化した集落跡	掘込型原敷含む土豪層集落跡	土豪層の掘込型原敷	集落跡(原敷・町場)	城郭の一部・掘込型原敷
時期	文明年間~1617年(倉城築城まで)	15c後半~16c代	15c~16c代	13c~16c前半	12c後半~近世	15c後半~16c末	12c~近世	15c後半~16c前半
中国陶磁	397	8	5	72	52	4	21	2
瀬戸瓦遺跡	754(遺跡269)	89(遺跡22)	93(遺跡31)	480(遺跡31)	524(遺跡71)	84(遺跡45)	525(遺跡99)	37(遺跡12)
初山・志戸呂	18	0	0	27(遺跡10)	39(遺跡7)	1	17(遺跡9)	0
肥前	7	0	0	0	10	1	18	0
常滑	333(片貝12)	107	31	161	1098	72	539	19
深美	1	0	0	13	50	0	9	0
備前	2(遺跡)	0	0	0	2	0	1	0
カワラケ	103(貝カワラケ3)	380(遺跡)	171(遺跡)	130	751	53	545	33
内耳土罫	123	84	143	200	1582	172	1248	143
土器遺跡	264(遺跡7含む)	105	81	4	129	87	267	22
瓦葺火鉢	115	3	0	2	5	19	3	2
土釜(風車)	4	0	0	15	0	0	0	1
東海系引釜	6	0	3	0	0	4	0	0
その他土器	0	7	6	3	12	3	17	2
合計	3060	783	530	1108	4254	500	3215	261
点数/100m <sup>2</sup>	30/100m <sup>2</sup>	22/100m <sup>2</sup>	13/100m <sup>2</sup>	37/100m <sup>2</sup>	16/100m <sup>2</sup>	20/100m <sup>2</sup>	8/100m <sup>2</sup>	30/100m <sup>2</sup>
文献	1~2	3~4	4~5	6	7	8	9~10	
備考	瀬戸瓦遺跡は調査まで	瀬戸瓦遺跡は調査まで	瀬戸瓦遺跡は発掘1まで	個々の点。瀬戸瓦遺跡は調査まで	瀬戸瓦遺跡は発掘2まで	瀬戸瓦遺跡は発掘1まで	瀬戸瓦遺跡は発掘1まで	瀬戸瓦遺跡は調査まで

文献

1. 木内達彦他1995『本佐倉城跡発掘調査報告書』印旛郡市文化財センター
  2. 井上哲朗2009『酒々井町・佐倉市本佐倉城跡の陶磁器類—戦国千葉氏本城の組成—』『房総中近世考古』第3号 房総中近世考古学研究会
  3. 井上哲朗1994『印西市小林城跡』印千葉県文化財センター
  4. 井上哲朗2005『南関東における城館出土陶磁器』『城郭と中世の東国』千葉城郭研究会編 高志書院 印千葉県文化財センター
  5. 井上哲朗1998『鹿島川流域における戦国前期城館の一形態—四街道市北ノ作遺跡の調査から—』『研究連絡誌』53号 印
  6. 道澤 明2000『篠本城跡・城山遺跡』印東総文化財センター
  7. 柴田司可2006『東関東自動車道水戸PA埋蔵文化財調査報告書3—墨古沢遺跡—中世編』(財)千葉県教育振興財団
  8. 道上 文他2007『千葉県船橋市 東中山台遺跡群(36)』船橋市教育委員会
  9. 柏市遺跡調査会1999『柏市埋蔵文化財調査報告書28 中馬場遺跡(第4次)』
  10. 葉瀬裕一2003『柏市中馬場遺跡の中近世遺物について』『房総中近世考古』第1号 房総中近世考古学研究会
- 注1)表8は複数の参考文献がある場合、同一遺跡のなかで数量に若干の違いが認められたものがあり、筆者が数値を調整した。本佐倉城跡と中馬場遺跡の遺物は、房総中近世考古学研究会の遺物調査に筆者も参加して実見している。

グラフ3 米本城跡c地点と他の遺跡の遺物組成比較





土壘全景



土壘中央全景



土壘西側全景



1T 土壘中央掘り下げ状況



2T 土壘中央掘り下げ状況



3T 土壘西側掘り下げ状況



1T.2T.3T 掘り下げ状況



1T 土層断面

図版2 遺構[1T～3T調査.04M]



2T 土層断面



3T 掘り下げ状況



3T 完掘状況



土塁下完掘状況



3T 土層断面



01 調査区 13P 全景



04M 遺物出土状況



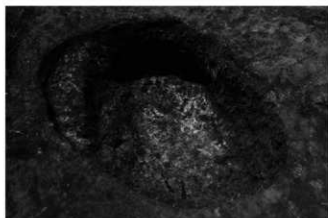
04M 全景



04M 遺物出土状況



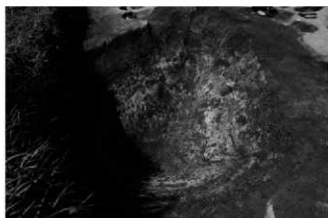
東壁基本層序



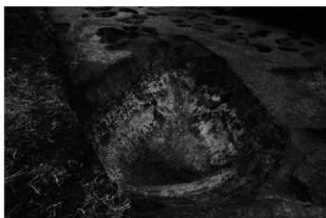
14P 全景



01 井戸土層断面



01 井戸全景 1



01 井戸全景 2



調査区全景作業中



調査区全景



調査区全景



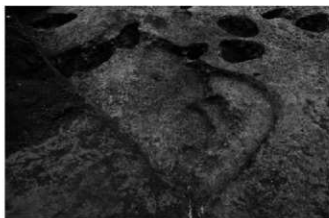
調査区全景(北から)



南側全景



全景(南から)



54P 全景



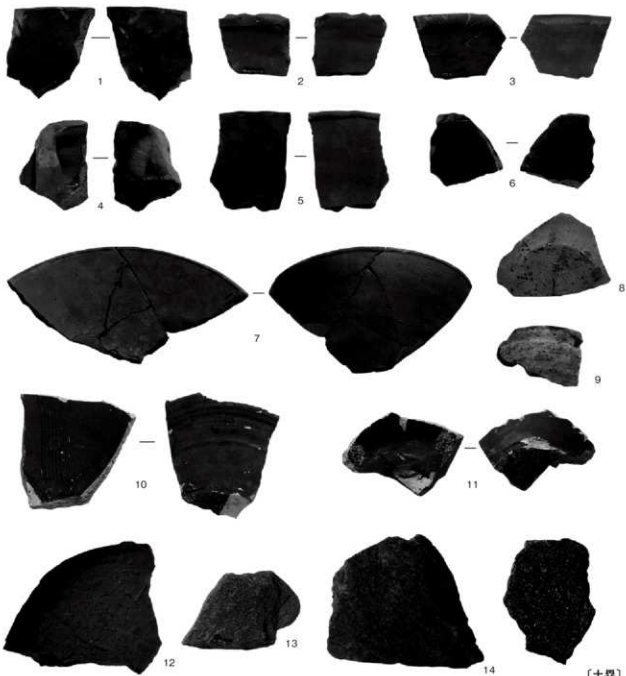
83・84P 全景



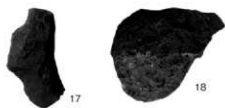
遺跡過景



遺跡全景



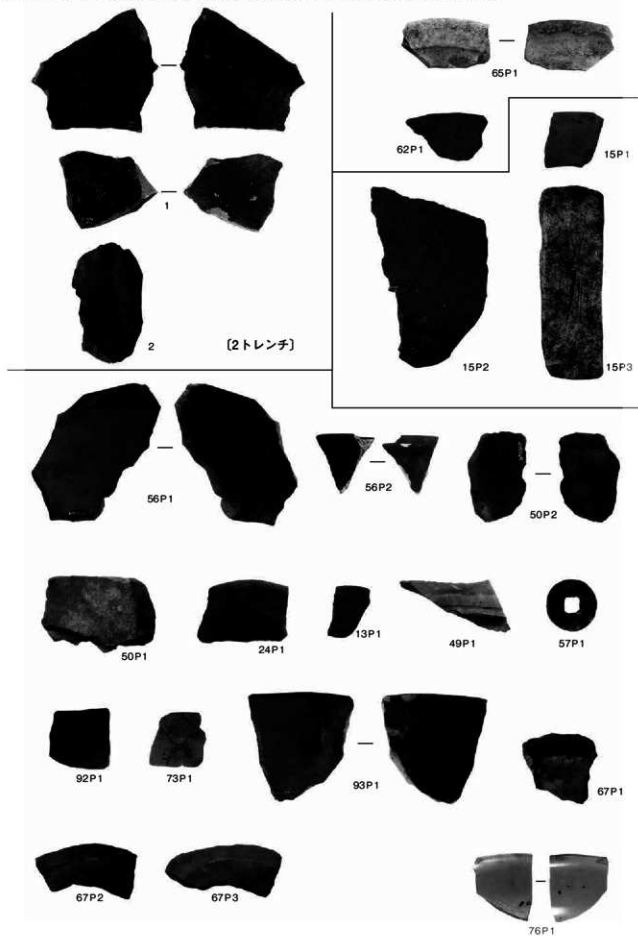
〔土壘〕

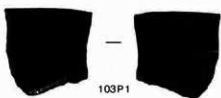


〔土壘上〕

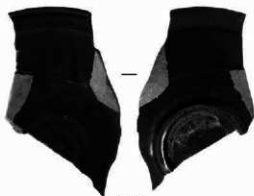


図版6 遺物 (2T.13P.15P.24P.49P.50P.56P.57P.62P.65P.67P.73P.76P.92P.93P)

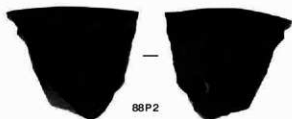




103P1



90P1



88P2



88P1



1



2



4



3



[54P]



1

1



1



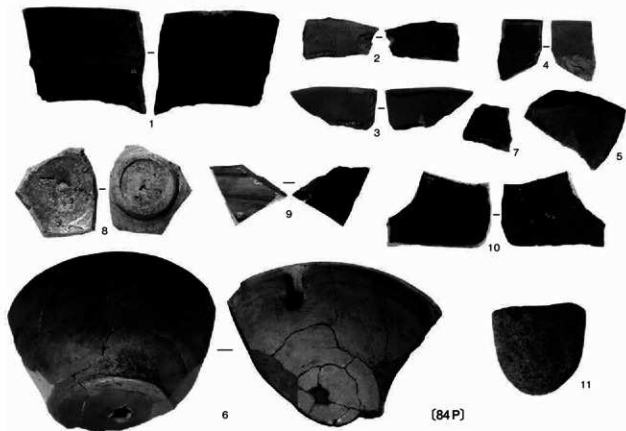
2



3

[83P]

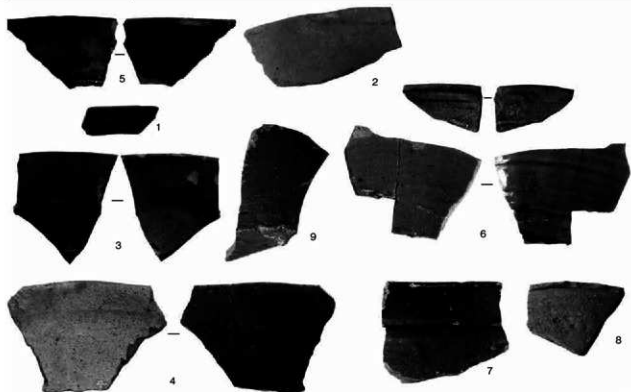
図版8 遺物 [84P.61P.87P.01井戸]



[61P]

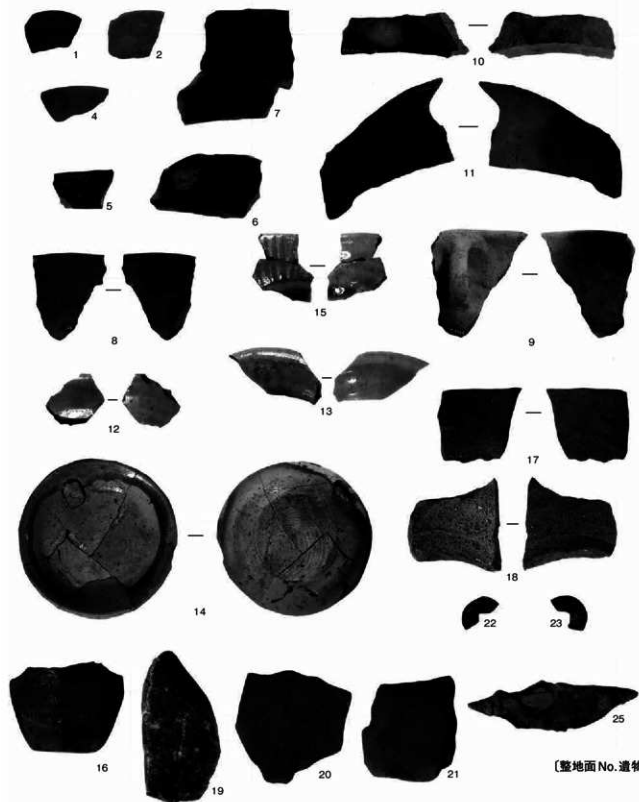


[87P]



[01井戸]

図版9 遺物〔整地面No.遺物.整地面一括〕

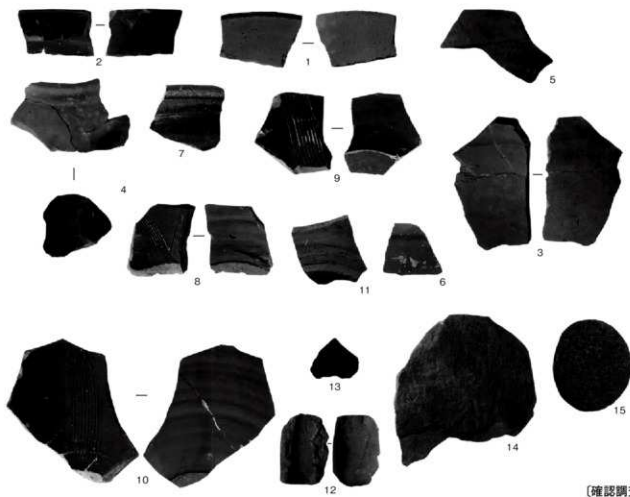


〔整地面No.遺物〕

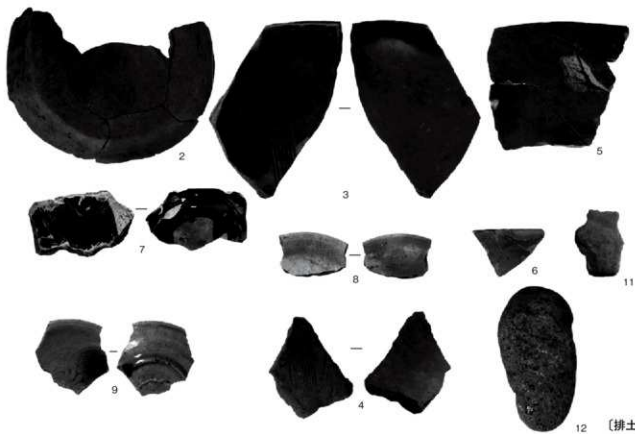


〔整地面一括〕

図版10 遺物〔確認調査・排土〕



[確認調査]



[排土]

## 参考文献

- 浅野晴樹 2005「戦国期城館の年代観」『戦国の城』高志書院
- 井上哲朗 2005「南関東における城館跡出土陶磁器—その傾向と歴史的背景—」『城郭と中世の東国』高志書院
- 柴田龍司 2006「東関東自動車道水戸線酒々井PA埋蔵文化財調査報告書3—黒古沢遺跡—中世編」(財)千葉県教育振興財団 第542集
- 遠山成一・外山信司・道上 文2008「第四章 戦国時代」第七章 市域の中世遺跡」『八千代市の歴史 通史編上』八千代市
- 外山信司 2022「米本城城主村上綱清と上総—清宮秀堅「下総旧事」をてがかりに—」『千葉県の文書館』第27号 千葉県文書館
- 中井正代 1995「米本城跡」『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅰ—旧下総国地域—』千葉県教育委員会
- 水澤幸一 2017「中世後期の青磁盤」『中近世陶磁器の考古学』第五巻 雄山閣
- 道上 文 2021「中世のムラ・城をめぐるモノの動き—遺跡からみる北総地域の物流—」令和2年度千葉市・千葉大学公開市民講座 講演録『千葉氏の領域における交通と流通—水と陸でつながる人・モノの中世—千葉市・千葉大学(千葉市立郷土博物館編)』
- 村田一男・安達 新1976「八千代中世城館址調査報告」八千代市教育委員会
- 村田一男 1978「第三章 中世」『八千代市の歴史』八千代市
- 村田一男 1991「第二章 中世」『八千代市の歴史 資料編』八千代市
- 森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2
- 築瀬裕一 2001「千葉市源町遺跡群—高津辺田遺跡・南屋敷遺跡—」(財)千葉市文化財調査協会
- 築瀬裕一 2004「房総の中世集落」『中世の東国世界2 南関東』高志書院
- 築瀬裕一 2005「3. 千葉 房総における15・16世紀の陶磁器研究」『中世土器・編年研究会記録3 関東、東海における中世土器(煮炊具)の最近における研究成果』文部科学省特定領域研究「中世考古学の総合的研究」
- 吉岡康暢・門上秀敏2011『琉球出土陶磁社会史研究』真陽社

## 報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし よなもとじょうあとしーちてん							
書名	千葉県八千代市米本城跡c地点							
副書名	共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
編著者名	森 竜哉・道上 文							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138番地2 TEL:047(483)1151 代表							
発行年月日	令和5年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 道路番号		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
よなもとじょうあと 米本城跡 ちてん c地点	よなもとあざうちじゅくみなみ 米本字内宿南 1732-1の一部	12221	190	35度 74分 72秒	140度 11分 63秒	20220613 ～ 20220810	上層 875㎡	共同住宅建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
米本城跡c地点	城館跡	中近世	土塁1条・溝1条・ビツト103基・井戸1基		中国産青磁鉢折盤、白磁燗反碗、常滑瀬陶器片口鉢・薬師戸、美濃瀬陶器平碗・縁輪小皿・椀鉢・銀目付大皿土器類カワラケ・内耳土鍋・椀鉢・火鉢・風炉			
要 約	米本城跡における調査として3例目である。米本城IV郭北側に位置し、その関係性を把握することが重要であると想定された。結果として、その形状や遺構構成から、掘込型屋敷と判断された。時期は遺物から15世紀後半～16世紀前半で、遺物構成から土築層の屋敷と想定された。その後16世紀後半に、村上氏により台地先端部へ拡大して、米本城が構築されたと考えられる。							

千葉県八千代市 米本城跡 c 地点  
- 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

---

発行日 令和5年3月30日  
編 集 八千代市教育委員会 文化・スポーツ課  
〒276-0045 八千代市大和田138-2  
TEL 047-483-1151(代表)  
発 行 加茂 文雄  
印 刷 株式会社総合印刷新報社





